

令和5年度第5回茅野市総合計画審議会 次第

日時 令和5年12月18日(月)
午後6時30分～

場所 茅野市役所 議会棟大会議室

1 開会

2 会長挨拶

3 市長挨拶

4 協議事項

(1) 第6次茅野市総合計画基本構想(案)について 資料1

(2) 地域幸福度(Well-Being)指標について 資料2

(3) 答申(案)について 資料3

(4) その他

5 その他

6 閉会

第6次茅野市総合計画 基本構想(案)

令和5年12月
茅野市

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

第2次茅野市地域創生総合戦略

資料編（計画策定関連資料、土地利用構想、各種データ）

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

第2次茅野市地域創生総合戦略

資料編（計画策定関連資料、土地利用構想、各種データ）

1 現状把握と課題提起の考え方

茅野市の現状について、**強み**、**弱み**、**脅威**、**機会** の4つの要素で整理し、把握します。

課題については、茅野市の**強み**を活かし、チャンス（**機会**）を捉えながら、茅野市の問題（**弱み**）を克服し、**脅威**に立ち向かうといった考え方に基づき提起します。

2 茅野市が守り、育んできた大切なもの

今から約5000年前の縄文時代中期、茅野市は日本の縄文文化の中心地でした。当時、八ヶ岳西南麓一帯では、多くの人々が、助け合い、支え合いながら、豊かで活力に満ちた生活を営んでいました。

この地では縄文文化以来育まれた学びを**基本**に、茅野市がこれまでのまちづくりにおいて、守り、育んできた大切なもの、そして、これからも、茅野市の**強み**としてまちづくりに活かしていきたいと考えているものを確認します。

八ヶ岳の豊かな自然環境と人々の交流

- ・ 縄文時代中期に最も人口が集中し、黒曜石などを運ぶ交易の中心であったとされ、古くは、湯治場、療養地として栄えた歴史
- ・ 現在は、**都市部から近い立地の良さに加え**、約1万戸の別荘を有するなど、多くの観光客や別荘利用者が訪れる高原リゾート地
- ・ 多くの人々が八ヶ岳の豊かな自然環境を目的に訪れ、滞在し、そこに生まれた交流が育んできた寛容性や地域経済

公民協働の「パートナーシップのまちづくり」

- ・ 自助、共助、公助のバランスを保ち、地域の多くの人々の参画により公民協働でまちづくりを推進する茅野市ならではの手法
- ・ 地域の課題は地域で解決する仕組みとして、戦後間もなくスタートした公民館活動が**基本**
- ・ 諏訪中央病院などの市内の医療機関と、保健、福祉、地域との連携を目指した地域包括ケアシステムの構築

「若者に選ばれるまち」実現を目指す人口減少対策

- ・ コワーキングスペースの設置、DMOの創設などによる関係人口、交流人口の創出
- ・ 「デジタル田園健康特区」による健康・医療分野の取組、DXの推進、「のらぎあ」のサービス展開
- ・ 福祉、環境、子育て・教育を中心とした、住みたい、住み続けたいまちの実現に向けた取組の推進

3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響 ①

世界規模で社会経済情勢は大きく変化※1しており（脅威）、その影響は、茅野市へ直接及び、地域の人と人とのつながりの希薄化※2や、地域経済の縮小※3を引き起こしています（弱み）。

しかし、コロナ禍においては、人の流れに「地方回帰」の新たな潮流※4が生まれ、人口減少・超高齢化が進む茅野市にとって大きなチャンスとなっています（機会）。

- ※1
 - 新型コロナウイルス感染症により、これまで当然と考えられていた社会の枠組み、人々の生活様式などが大きく変化
 - ロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価高騰
 - 社会経済情勢は一層不安定で混迷を極めており、今後も先行きを見通すことは困難
- ※2
 - コロナ禍で地域の会議や行事などが中止され、人と人とのつながりが希薄化
- ※3
 - グローバル化の進展に伴い、物価高騰などの世界規模の経済情勢の変化が市民生活に直接影響
 - コロナ禍で人の移動が制限され、観光客や市民の外出の機会が減少したことによる、観光業や飲食業などへの打撃
- ※4
 - 感染リスクの回避や安心・安全な日常、リモートワークなどの“新しい働き方”へのニーズの高まりにより、これまで東京に一極集中していた人の流れが地方へシフト
 - コロナ禍においては、茅野市の別荘地にも多くの人々が滞在した。
 - ポストコロナでは、人の流れが東京へ戻る動きも見られるが、地方への関心は依然高い傾向

3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響 ②

人口減少・超高齢化は確実に進展※₁しており（脅威）、それにより、地域や産業を支える人材の不足※₂が顕在化しています（弱み）。

また、人口構成のアンバランスによる社会保障費の増大などにより、市財政の硬直化※₃が進んでいます（弱み）。

- ※₁・ 2008年をピークに減少を続ける日本の総人口は、2053年には1億人を下回る予測
 - ・ 特に出生数は、2000年の約119万人が2022年には約77万人になるなど急激に減少
 - ・ 15歳未満の子どもの推計人口は、1,453万人と42年連続で減少し、過去最少を更新
- ※₂・ 少子化により、区・自治会の役員や消防団員の成り手不足が顕在化
 - ・ 農林業をはじめとする各産業においても後継者や担い手が不足
- ※₃・ 超高齢化による社会保障費や老朽化した公共施設の維持管理費などの増大により、新たな投資への財源確保が困難

世界規模の異常気象※₄の影響（脅威）と、茅野市の地理的特性が相まって、市内でも自然災害が多発化し、被害も深刻化※₅する傾向があります（弱み）。

- ※₄・ 世界気象機関は、異常気象は長期的な地球温暖化の傾向と一致していると発表
 - ・ 国内でも、記録的な豪雨や猛暑などにより多くの被害が発生
- ※₅・ 近年、市内でも集中豪雨などにより、大規模な土石流災害や浸水被害が発生
 - ・ 今後は、南海トラフ地震など、いつ起こるかわからない大地震の発生も予測

3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響 ③

国は、地方のDX（デジタルトランスフォーメーション）の取組を積極的に支援※1しており、
（機会）、地域の課題解決に向けて先進的にDXの取組を進める茅野市の大きな力になります
（強み）。

- ※1 ・ 国は、2021年にデジタル社会の実現を目指すための司令塔としてデジタル庁を創設
- ・ 全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を提唱
- ・ デジタルの力により地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図る取組を積極的に支援

2050年のゼロカーボン達成に向けて、国は、GX（グリーントランスフォーメーション）の
取組を積極的に推進しており、社会全体の機運の高まり※2も見られます（機会）。
こうした動きは、八ヶ岳の恵まれた自然環境を、守り、育み、これからも大切に活かしていこう
とする茅野市の大きな力になります（強み）。

- ※2 ・ 気候変動の原因とされる二酸化炭素の排出の抑制と二酸化炭素の吸収源対策の推進は世界共通の課題
- ・ 国は、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すと宣言
- ・ 2021年に策定したグリーン成長戦略に基づき、政策を総動員して脱炭素社会の実現を目指す取組を推進
- ・ GXは、官民連携で目標となるゼロカーボン達成に向けた取組を行い、目標達成と経済成長を同時に目指すもの

4 これからのまちづくりに必要なこと ①

これまでに把握した茅野市の現状を踏まえた、これからのまちづくりの課題

人口減少下における持続可能な地域経営

八ヶ岳の豊かな自然環境を活かしながら、安全に安心して、便利で快適な暮らしを送ることができる環境を整備するとともに、成長産業に関連した付加価値の高い雇用の創出、新しいビジネスを興す起業・創業の支援などを通じて、人や企業を呼び込み、交流を促しながら、地域コミュニティの担い手確保と地域経済の活性化の両方を見据えた取組の推進が必要です。

公民協働のまちづくりの転換

人口減少・超少子高齢化の局面においては、これまでの「パートナーシップのまちづくり」のように、地域に多くの人の手があることを前提とするまちづくりの仕組みから、これまで以上に市内外の多様な人のまちづくりへの参画を促し、デジタル技術などを活用しながら、より少ない人数、より軽い負担で、効率的にまちづくりを進めることができるような新たな協働の仕組みへの転換が必要です。

多発化する自然災害と深刻化する被害への対応

災害発生を見据えた地域の連携、協力体制づくりを引き続き進めるとともに、災害発生時に、道路や橋、避難所となる施設などが安全・安心に利用できるよう、長寿命化を見据えた社会インフラの維持管理・更新、住宅の耐震化など、ソフトとハードの両面で自然災害への対応が必要です。

4 これからのまちづくりに必要なこと ②

これからのまちづくりに必要となる取組に関する課題

課題解決の手段としてのDXの推進

茅野市の「DX元年」である2022年に策定した「茅野市DX基本構想」に基づき、これまで他自治体に先行して進めてきたDXの取組を持続し、それを常に成果につなげ、そこで得られたノウハウや知見を、新しいまちづくりの仕組みの再構築や地域課題の解決へ積極的に発揮するとともに、こうした取組を民間事業者と推進し、地域経済の活性化やイノベーションの創出につなげる必要があります。

地域循環共生圏の形成に向けたGXの推進

八ヶ岳の豊かな自然環境を守り、かけがえのない地域資源として活用し、その恩恵を受け取るためには、茅野市においても2050年の脱炭素社会の実現をあらゆる社会経済活動に共通する価値観と位置付けるとともに、民間事業者などとの連携により、持続可能な地域の実現と地域経済の活性化に向けた「地域循環共生圏」の形成が必要です。

行財政改革の推進

超高齢化の進展に伴う社会保障費や老朽化する社会インフラの維持・修繕費など、今後増大が見込まれ、将来確実に必要になる財源を計画的に確保するとともに、これまでのまちづくりの仕組みや行政経営の再構築、歳入の確保、これからの地域課題の解決に必要なDXの推進等、茅野市の未来を見据えた投資に振り向ける財源の確保が必要です。

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

第2次茅野市地域創生総合戦略

資料編（計画策定関連資料、土地利用構想、各種データ）

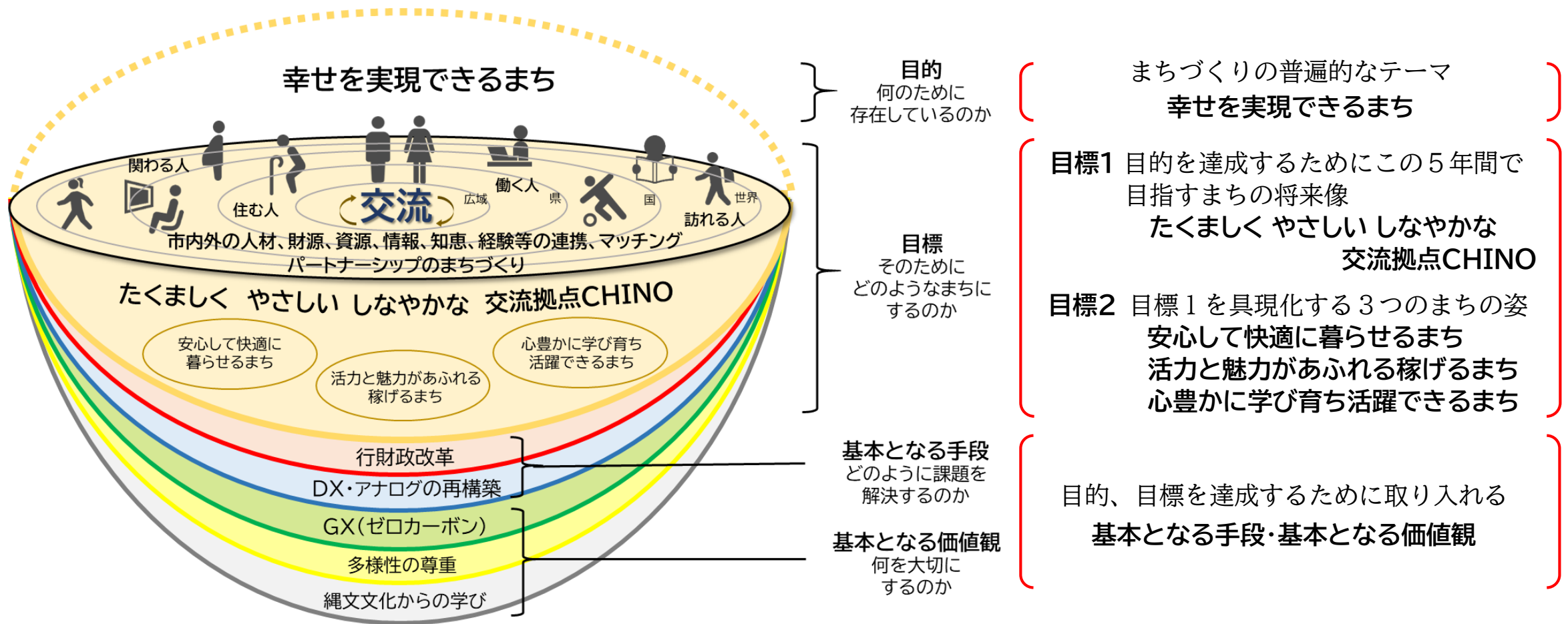
1 これからのまちづくりの考え方 ①

これまでに整理した与件を元に、見出された課題を解決し、これからのまちづくりを進めるための基本的な考え方は、次のとおりです。

- まちづくりの最上位の概念として、目的（普遍的なテーマ）を設定します。
- その実現に向けて、具体的なまちの姿（目指すまちの将来像、3つのまちの姿）を目標として設定します。
- こうした目的、目標の達成を意識しながら取組を推進します。
- 取組の推進にあたっては、新しい手段や価値観を積極的に取り入れます。

1 これからのまちづくりの考え方 ②

まちづくりのイメージ



各パーツの内容については、目的、目標、基本となる手段・価値観の順に次ページから定めます。

2 まちづくりの普遍的なテーマ ① 【目的】

グローバル化の進展に伴い、世界規模の社会経済の大きな変化は、市民の生活に直接影響を及ぼしています。一方で、市民一人ひとりの意識と行動が、SDGsやゼロカーボンなど、持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標を達成に導く可能性を有しています。

市内に目を向けると、地域の人口減少・超高齢化は急速に進展しており、人手不足が顕在化する現状を地域に住む一人ひとりがしっかりと見つめ、地域コミュニティの維持を地域の課題として捉えていく必要があります。

これからの時代は、市民一人ひとりが世界や国内の社会経済の大きな変化に柔軟かつ的確に対応することが求められるとともに、社会や地域の課題に対してどのような意識を持ち、その解決に向けてどのような行動を起こすかが、まちづくりを進める上で、非常に大きな意味を持ちます。

2 まちづくりの普遍的なテーマ ② 【目的】

ここで、大事なキーワードになるのが「幸福感」です。

幸福感は、人に前向きさや向上心、人を受け入れよう、人や社会のために何かしようなどの気持ちを生み出してくれます。

これからのまちづくりにおいては、市民をはじめとした、あらゆる人の幸福感を向上することにより最大化された人の心の豊かさが、社会や地域の課題解決への意識と行動を喚起し、まちの豊かさにつながり、そこにまた別の誰かの幸福感を向上する「幸せの連鎖」が生まれ、まちがより豊かになるという考え方が大変重要になります。

そして、こうしたまちの豊かさが、世界共通の目標達成に貢献するような世界規模の豊かさにもつながるまちを目指し、茅野市のまちづくりの普遍的なテーマを次のように定めます。

幸せを実現できるまち

茅野市に住む人、働く人、関わりのある人、茅野市を訪れる人など、あらゆる人が、自己実現を通じて、その人なりの幸せを実現できるまち、その幸せがまた別の誰かの幸せにつながっていくまち、そして、その幸せの連鎖が未来に向かって続いていくまち、そんなまちを実現することが、茅野市のまちづくりの目的です。

この目的の達成に向けて、国が示す「Well-Being」（地域幸福度）の考え方を取り入れ、市民の皆さんが日々の暮らしの中で得られる幸福感の向上のため、市民の皆さんと一緒に茅野市のまちづくりを進めていきます。

3 目指すまちの将来像 ① 【目標1】

茅野市を「幸せを実現できるまち」にするために、この5年間で目指すまちの将来像を描く時、まず、これまで茅野市がまちづくりで育ててきたまちの「たくましさ」「やさしさ」を**基本**に、これからは、目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢へ柔軟かつ的確に対応するための「しなやかさ」を、これまで以上に意識していく必要があります。

「たくましさ」

地域において稼げる仕事・誇れる産業があること
元気に生き活きと那人らしく生活できること
まちに活気と魅力があふれ、賑わいを感じられること
災害に立ち向かう気概と、命を守るための備えがあること
新しいことに挑戦し続ける前向きさがあること

「やさしさ」

人の命や自然を大切にし、自分以外を思いやる心を持つこと
安心して子どもを産み、育てることができる環境があること
支え合いの精神と新たな手法による共助の仕組が整っていること
使う人にとって最適な都市基盤が整備されていること
お互いを尊重して認め合い、受け入れ、共生すること

「しなやかさ」

予期せぬ変化や困難を乗り越える柔軟性に富んでいること
持続可能な社会の実現のため、社会の仕組を変えていくこと
生涯に渡って活躍するために向上心を持って学び、実践すること
地域の担い手や求められる人材を育み、呼び込み、未来へと繋ぐこと
大切な価値を守るため、自ら変わり続けること

そして、私たちが幸せを実現するための原動力は、多様な **交流** です。

茅野市は縄文時代中期、交易の中心として多くの人が行き交う場所だったと言われています。現代においても、八ヶ岳の豊かな自然環境は、療養地、静養地、避暑地として多くの人を惹きつけ、ポストコロナにおいては、「地方回帰」の場として注目されています。地域には、公民協働による支え合い、助け合いの仕組みがあります。

このように人の交流が常にまちの中心にあることは、いつの時代も変わらない茅野市の強みです。

人口減少・超高齢化の今だからこそ、新たなまちづくりの仕組みを整えて、交流を拡大し、これまで茅野市が培ってきた「たくましき」、「やさしき」、「しなやかき」に、さらに磨きをかけ、新しい時代に対応した「幸せを実現できるまち」の創造を図りたいと考えています。

交流

の考え方 ～ 「若者に選ばれるまち」の実現～

これまでの「若者に選ばれるまち」を目指す取組を基本とし、市内の様々な場所に、人や企業が集まる目的と交流の仕組みをつくり、その輪を広げることにより、若者を中心としたより多くの人や、若者が魅力を感じる産業を生み出す企業などを市内へ呼び込み、市内外の人や企業との交流を促します。

交流を通じて、それぞれの持つ力がまちの力（地域経済を活性化する力、地域の支え合い、助け合いの力など）に転化され、結果として子どもからお年寄りまですべての市民が便利で暮らしやすいまちを実現することができます。そして、こうしたまちの姿に惹かれて、より多くの人や企業が交流する好循環が生まれ、その人なりの「幸せを実現できる」フィールドが整います。

また、交流によりもたらされる市外の人々の視点は、ここに住む人では気付かない価値や資源などを掘り起こしてくれます。こうして見出された新たなまちの魅力を発信することで、より多くの人を市外から呼び込むと同時に、ここに住む人の地域への愛着も醸成することができます。

交流

の考え方

～ 地域における支え合い、助け合い ～

子どもや高齢者の見守り、環境美化活動、災害が発生した際の安否確認、避難の声掛けなど、人の暮らしに密着した課題に対し、地域が一体となり支え合い、助け合うことは、「幸せを実現できるまち」に欠かせない交流の姿です。

地域の担い手の一人として支え合い、助け合いに参画することは、人の幸せ実現の一助になれたという満足感を得るだけでなく、自身も地域に守られているという安心感を得ることもできるため、結果的に自身の幸せの実現にもつながっていきます。

茅野市には、公民協働のまちづくりにより育まれた地域における支え合いや助け合いに加え、市外の人を受け入れる寛容性が息づいています。今後地域で人口減少・超高齢化が進展しても、こうした強みを時代の変化に適応させながら活かすことにより、地域における交流はさらに活性化していきます。

交流 の考え方 ～ “知” の（CHINO）交流拠点の創出 ～

グローバル化と同時にICT（情報通信技術）が急速に進化する現代社会においては、地方にいながらにして、国内のみならず世界の最新情報や、有識者の知恵、知識、知見などを簡単に手に入れることができます。また、コロナ禍において、ICTを駆使したリモートワークは、生産性向上に寄与する新しい働き方として広く普及しました。

茅野市では、こうしたICTを通じてやり取りされる目には見えない価値や資産を“知”と捉え、市内の大学やコワーキングスペースなどを中心に、多様な“知”が集い、交流する拠点の創出を目指します。

そして、こうした“知”を柔軟に取り入れ、この地に育まれてきた歴史や文化、生活様式、生活の知恵などの“知”と融合させることにより様々なイノベーション生み出し、これまで対応が難しかった地域課題の解決を目指します。

3 目指すまちの将来像 ⑥ 【目標1】

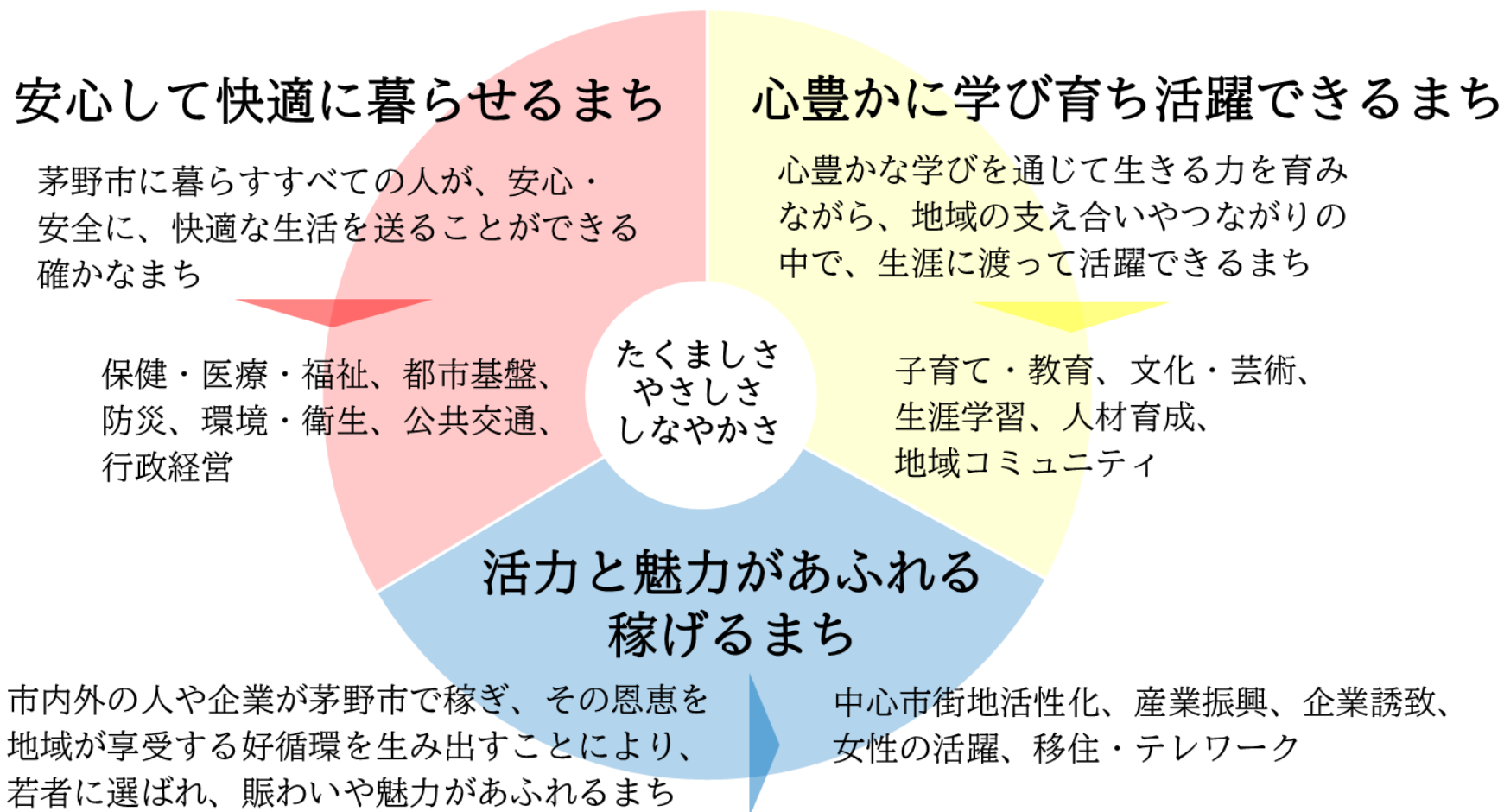
様々な交流を原動力にして、
「よりたくましく」、「よりやさしい」、「よりしなやかな」まちを実現し、
茅野市が「幸せを実現できるまち」になるために
この5年間で目指すまちの将来像を、次のとおり描きます。

たくましく やさしい しなやかな

交流拠点 CHINO

4 3つのまちの姿 【目標2】

様々な交流の力を発揮し、まちの「たくましき」、「やさしき」、「しなやかさ」に磨きをかけてため、次の3つのまちの姿を描き、その実現に向けて市民と行政が一緒に取り組を推進することで、「幸せを実現できるまち」の具現化を目指します。



ここまでに掲げたまちづくりの普遍的テーマ、目指すまちの将来像、3つのまちの姿の実現に向けて、課題解決の「基本となる手段」と、共有すべき「基本となる価値観」を定めます。

第6次茅野市総合計画に位置付けたすべての取組は、次ページ以降の「基本となる手段」、「基本となる価値観」を取り入れながら推進していきます。

行財政改革

- 人の手のあることが前提のまちづくりや行財政の仕組みを、ポストコロナ社会や人口減少・超高齢化に対応した形に変えていきます。
- これまで大切にしてきた公民館活動や「パートナーシップのまちづくり」、地域コミュニティなどのまちづくりの仕組みを、茅野市の強みとしてこれからのまちづくりにも活かしていくために、市民との対話を十分に行いながら、新しい時代に対応した形へ再構築します。
- また、市民がより安全に安心して、便利で快適な暮らしを送るために必要な未来への投資が行えるよう、行政内部の仕事のやり方、公共施設や行政サービスのあり方などを再構築します。
- こうした再構築の推進にあたっては、デジタル技術等を積極的に活用し、生産性の向上を目指します。

【関連する計画等】 行財政改革基本方針

DX・アナログの再構築

- 人の手のあることが前提のまちづくりや行財政の仕組みを、ポストコロナ社会や人口減少・超高齢化に対応した形に変える手段として、また、交流を促す手段として、積極的にDXの取組を推進します。
- DXの推進にあたっては、まず、人と人とのつながり、人の手による温かみが必要な部分はしっかりと残しながら、アナログの手順を再構築します。
- そして、合理化、省力化、効率化が求められる、人の手でなくても良い部分をデジタル技術等に置き換えたり、デジタルツールを活用して、これまでまちづくりに参画することができなかった人の力をまちの力に取り込むなどして、手順の再構築を行います。
- 安心、安全にDXの取組に参加できる環境整備や、デジタル機器に不慣れな人を取り残さないようにするための取組に加え、DXの推進を担う人材の育成も同時に推進します。

【関連する計画等】 茅野市DX基本構想、茅野市DX基本計画

5 まちづくりの基本となる価値観 ①

GX（ゼロカーボン）

- 2050年のゼロカーボン達成を持続可能なまちづくりに向けた新たな価値観とし、気候変動による自然災害の発生を抑制するなど、安全・安心な暮らしの実現を目指します。
- 八ヶ岳の豊かな森林・農地は、温室効果ガスの吸収のほか水源涵養など公益的な役割を持つ貴重な地域資源であることから、森林の健全育成や農地管理の取組を通じて、自然環境を保全します。
- 他市町村や民間事業者との連携により、エネルギーの地産地消など地域循環共生圏のまちづくりを推進し、地域経済の好循環を目指します。

【関連する計画等】 茅野市ゼロカーボン戦略（仮）

多様性の尊重

- 人の交流が常にまちの中心にある茅野市は、多様な人を受け入れる地域性を有しています。
- こうした歴史的、社会的な背景を活かしながら、あらゆる人が、お互いの考え方や生き方などを尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる環境を整えることで、さらなる交流の促進を図ります。

【関連する計画等】 茅野市男女共同参画計画、茅野市多文化共生・国際交流推進計画

縄文文化からの学び

- 茅野市には、市内に多数存在する縄文時代の文化遺産を通じて、縄文文化を身近に感じ、縄文人の生き方や暮らしに触れ、そこから多くの学びを得ることができる環境があります。
- 一方で、私たちの生活様式、考え方など日本文化と呼べるものは、縄文文化を基層にしていると言われており、市内に多数存在する文化遺産を通じた多くの学びにより、現代社会が抱える様々な課題を解決に導く「価値」を見い出すことができます。
- それは、世界共通の目標であるSDGsの考え方にもつながるものであり、関連するゴールと重ね合わせてみることで、目標の達成に向けた具体的な行動に結び付くことも期待されます。

6 まちづくりの3つのポイント

時代の変化に対応して、市民と行政が一緒にまちづくりを進めるための3つのポイントを、以下のとおり定めます。

① 目的志向

ゴールから考える

目的、目標の達成のために **必要なこと、不要なことを考える。**
変えること、変えないことを考える。

これからのまちづくりでは、市民と行政が目的、目標を同じくし、その達成に向けて、これまでのまちづくりの仕組みを見直し、本当に必要なことを見極め、時代の変化に対応した形に変えていく必要があります。

② 未来志向

未来への種まき

10年後、20年後の未来の茅野市のために **今からできることを考える。**
この5年間にできることを考える。

未来の茅野市を、市民一人ひとりが笑顔で暮らせる「幸せを実現できるまち」にするために、まちの未来を見据えて、市民と行政が今からできることに着手していく必要があります。

③ 自分ごと化

「自分がつくる
みんなの茅野市」

目的、目標の達成のために **それぞれの立場でできることを考え、行動する。**
未来の茅野市のために

時代の変化に対応した市民参加と協働による住民自治のまちづくりの考え方にに基づき、それぞれの立場で考えたことを、勇気と意志を持って行動に移す必要があります。

7 まちづくりの成果指標と目標

まちづくりにおける最上位の成果指標(KGI:重要目標達成指標)を次の2つとし、それぞれ目標を定めます。

将来展望人口

これまでの総合計画と同様に、総合計画に位置付けた人口減少対策の効果を見込んで令和5年度に茅野市が独自に推計した将来展望人口

目標 ○年後(令和○年度) ○○○○人 ○年度(令和○年度) ○○○○人

市民意識調査における「幸せ」と感じる人の割合

国が示す「Well-Being」(地域幸福度)の考え方にに基づき毎年市が実施する市民意識調査の「あなた自身の幸福度」の設問において、「幸せ」(「どちらかという幸せ」以上)と答えた人の割合

目標 **57.2%(令和4年度)を基準に、令和10年度にこの割合を上回ること**

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

第2次茅野市地域創生総合戦略

資料編（計画策定関連資料、土地利用構想、各種データ）

3つのまちの姿に関連した施策例 ①

3つのまちの姿に落とし込まれたまちづくりの分野が持つ分野別計画（個別計画）から、この5年間で重点的に取り組む具体的な施策や事業などを基本計画として定めます。

次ページ以降で、現時点で想定する施策例を示します。

3つのまちの姿に関連した施策例 ②

安心して快適に暮らせるまち

茅野市に暮らすすべての人が、安全に安心して、快適に生活することができる
確かなまち

施策例

日頃から防災・減災に対する意識を高めるとともに、地域における協力体制の構築や、道路・橋梁・上下水道の長寿命化・耐震化など、ソフト、ハードの両面で安心・安全な社会基盤の整備を計画的に推進します。

複雑化、多様化する生活課題に対して必要な支援が届くよう、デジタル技術等を活用しながら、利用者のニーズに見合った安定的なサービスの提供を目指します。

森林は、土砂流出による災害の防止や水源かん養のほか、近年では、二酸化炭素の吸収源として重要な役割を担っており、地域資源として未来に受け継いでいくために、持続可能な基盤づくりを推進します。

3つのまちの姿に関連した施策例 ③

活力と魅力があふれる稼げるまち

市内外の人や企業が茅野市で稼ぎ、その恩恵を地域が享受する好循環を生み出すことにより、賑わいや魅力があふれるまち

施策例

先人たちがこの地で築き上げた産業を守り、さらに発展させていくため、次世代を担う人材の育成や後継者の確保に向けた取組を進めます。

中心市街地の賑わいの創出に向け、市内外の駅利用者の利便性や満足度の向上などを実現する新たな価値の提供を見据え、茅野市の玄関口であるJR茅野駅を中心としたエリア一体の今後のあり方の検討を進めます。

コロナ禍における脱東京一極集中・地方移住の流れは依然として強く、この流れを関係人口・交流人口の増加と、移住・定住につなげる取組を進めます。

3つのまちの姿に関連した施策例 ④

心豊かに学び育ち活躍できるまち

心豊かな学びを通じて生きる力を育みながら、地域の支え合いや繋がりの中で、生涯に渡って活躍できるまち

施策例

子どもたちが様々な原体験を通じて多くの人との関わりを持つことができる地域づくりや、希望に応じて子どもを産むことができ、幸せに満ちた子育てができる環境づくりに、市民一丸となって取り組むことで出生率の増加を目指します。

様々な人材育成に継続的に取り組むとともに、時代とともに維持することが難しくなってきた仕組や習慣を見直し、限りある地域の人材が生涯に渡って活躍できるまちづくりを推進します。

第2次茅野市地域創生総合戦略

総合戦略の概要

- 総合計画の施策や事業のうち、人口減少対策に特化し、分野横断的に効果を生み出すものを位置付けた行政計画です。
- 茅野市では、国の「まち・ひと・しごと総合戦略」を踏まえ、平成27年度に第1次総合計画を策定し、その流れを継承し、現在、令和2年度から令和6年度までを計画期間とする第2次総合戦略に基づき取組を進めています。
- 第2次総合戦略のテーマは「若者に選ばれるまち」です。
- これは、若者に選ばれることにより、まちに活気が生まるとともに、市民の負担も減り、結果として子どもから高齢者まで、すべての市民が暮らしやすいまちになるという考え方に基づくものです。
- 総合戦略の進行管理については、国の考え方にに基づき、産学官金労言等の関係者からなる有識者会議で行っています。

第6次総合計画との関係性

- 総合戦略と総合計画は、共通した課題に人口減少対策を掲げており、2つの計画が相互に作用し合いながら、政策、施策の効果を高める関係性にあります。その関係性を以下のとおり整理します。
 - 第1次総合戦略からの継続的な「しごとをつくる」取組の推進
 - ⇒第6次総合計画におけるまちの「たくましさ」や「活力と魅力あふれる稼げるまち」の推進につながります。
 - 市外の人や企業を市内に呼び込む流れ（茅野市を知り、訪れ、通い、住む）を意識した基本目標の設定
 - ⇒第6次総合計画における「交流」の促進につながります。
 - 10年後、20年度の「未来都市・茅野」を見据えた、データとデジタル技術の活用による先進的なまちづくりの取組の推進
 - ⇒第6次総合計画を推進するための基本的な手段に「DX・アナログの再構築」を位置付け、より多くのまちづくり分野にDXを展開

総合戦略の施策展開と総合計画（基本計画）における位置付け

※ここからのページには、総合戦略の5つの基本目標（施策）の展開と総合計画の基本計画における施策の展開を関連付け、一覧で示すとともに、総合計画の基本計画の該当施策には、総合戦略に関連したものであることを明示します。

資料編

- 計画策定関連資料
- 土地利用構想
- 各種データ

資料編

- 計画策定関連資料
- 土地利用構想
- 各種データ

1 計画策定の趣旨

- 新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るい、人々の暮らしに変革をもたらし、ロシアのウクライナ侵攻は、日本経済に大きなインパクトを与えています。
- 一方で、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsや脱炭素化などが世界共通の課題に掲げられています。国や県は、こうした世界規模の動きを捉え、ゼロカーボン、DXなどをテーマに新たな取組をスタートしています。
- このように、現計画（第5次茅野市総合計画）策定時の想定を超えるレベルで茅野市を取り巻く環境が大きく変化する中、人口減少・少子高齢化も着実に進展しており、今後、茅野市が直面し、解決を求められる課題は、これまで以上に複雑多岐に渡ることが予想されます。
- 現在茅野市は、こうした課題に対応するため、これまでのまちづくりの仕組みを見直す行財政改革の推進や新たなまちづくりの手段であるDXの活用と、新たな価値観であるGXの共有を進めています。
- 今後も、目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢への的確に対応し、茅野市の強みを活かしながら、新たな手段や価値観を取り入れ、持続可能なまちの実現を目指すまちづくりの指針として、第6次茅野市総合計画を策定します。

2 計画の位置付け

- 茅野市の総合計画は単なる行政計画ではなく、市民と行政が一緒に考え、策定し、実行する、市政経営に係る最上位の計画です。
- 茅野市では、昭和48年度(1973年度)を始期とする第1次総合計画に始まり、これまで5次にわたる総合計画を策定し、時代の変化に応じた目指すべき都市像やそれを実現するための構想を市民と共有してきました。

3 計画策定の根拠

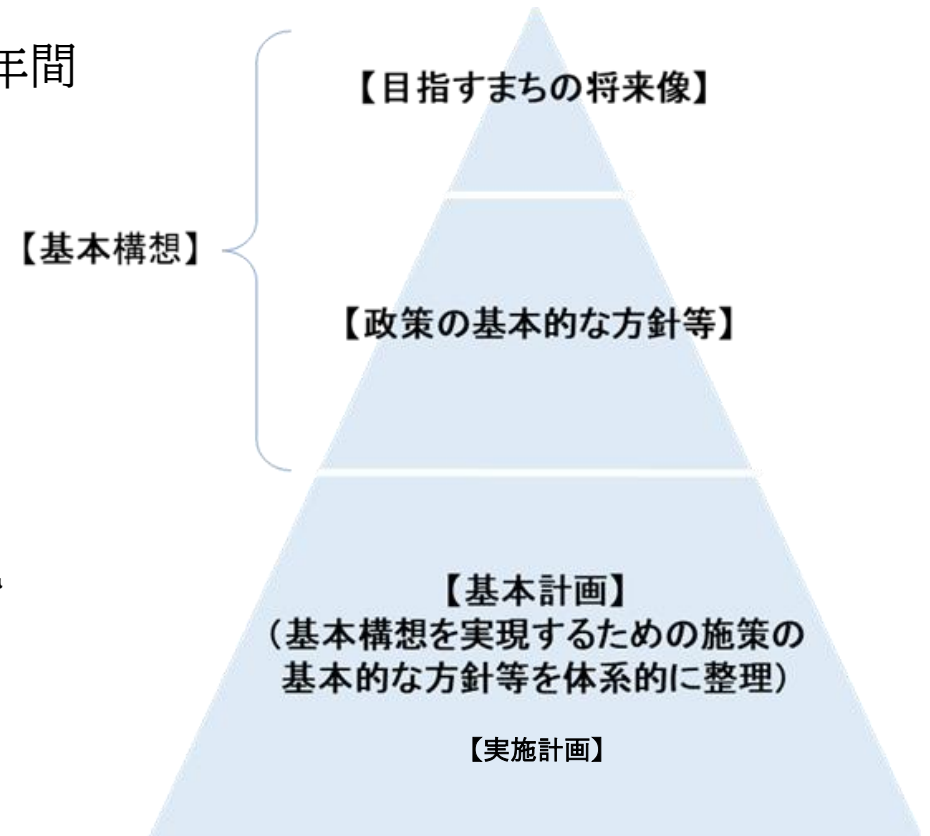
平成23年(2011年)に地方自治法が改正され、地方公共団体に課されていた基本構想の策定は任意となりましたが、茅野市は平成28年(2016年)に第5次茅野市総合計画の策定に合わせて、茅野市総合計画条例を制定し、市の目指すまちの将来像を明らかにするとともに、総合的かつ計画的な市政を推進するため、総合計画を策定することとしています。

4 計画期間

令和6年度(2024年度)から令和10年度(2029年度)までの5年間

5 計画の構成

第6次茅野市総合計画は、中長期のまちづくりを見据えた目指すまちの将来像やその将来像を実現するための政策の基本的な方針、土地利用構想等をまとめた「基本構想」と、基本構想を実現するための5年間の取組をまとめた「基本計画」、財政計画と連動した取組を、毎年ローリング方式により見直す「実施計画」により構成します。



● 6 計画策定の視点

今後5年間に渡って市民と一緒に実行する計画とするために、以下の3つの視点で策定します。

市民にとって身近でわかりやすい計画

総合計画は行政だけの計画ではなく、市民と行政が役割を分担しながら、一緒に実行する市政経営計画です市民にとって身近でわかりやすい計画とします。

財政計画と連動した実効性のある計画

限られた財源を最大限有効に活用するため、財政計画と連動した年次計画を策定することで、実効性のある計画とします。

効率的・効果的な進行管理や成果の測定が可能な計画

効率的・効果的な進行管理や成果の測定が可能となるよう、目標指標の内容や、数、水準等について適切に設定された計画とします。

7 計画の推進と進行管理

- P D C Aのマネジメントサイクルに基づき、まちづくりの目的、目標の達成を強く意識しながら、市民と行政が一体となり計画を推進します。

P l a n（計画）⇒D o（実行）⇒C h e c k（評価）⇒A c t（改善）⇒P l a n（見直し）

- 特に計画の進行管理にあたる、C h e c k、A c t、P l a nを毎年確実に行います。
- 進行管理にあたっては、まず、設定した数値目標とK P Iにより基本計画の成果や課題を把握します。
- 外部有識者等から構成される総合計画審議会においては、基本計画の評価を踏まえて、基本構想に掲げたまちづくりの目的、目標の達成状況を数値目標により把握し、計画全体の評価を行います。
- 評価の内容や、目的、目標への寄与度などにより、施策と事業の改廃を検討の上、基本計画に反映させます。
- 評価の内容については、市議会で報告するとともにホームページへ公開し、まちづくりの現状を広く市民に周知します。
- なお、計画に位置付けた数値目標やK P Iを人事評価に連動させ、組織のマネジメントの中で随時、定量的、定性的な進行管理を行い、計画の**実効性**を高めます。
- また、評価の結果は、予算作成や人員配置の参考資料とし、経営資源の選択と集中を図ります。

資料編

- 計画策定関連資料
- 土地利用構想
- 各種データ

土地利用構想 1 土地地用の方針 1-1 基本的な考え方

総面積266.59km²に及ぶ広大な市域は、茅野市の発展や豊かな市民生活、生産等の諸活動の共通の基盤であることから、総合的かつ計画的な土地利用を促進するため、土地利用の基本方針を以下のように定めます。

なお、より具体的な土地利用の方針等については、茅野市都市計画マスタープランにおいて示します。

1 土地利用の方針

1-1 基本的な考え方

茅野市の土地は、現在及び将来における市民のための限られた資産であるとともに、地域の発展や豊かな市民生活、生産等の諸活動の共通の基盤です。また、森林・農用地・宅地・道路・河川等の土地資源の上に、水や空気、景観等の要素が加わって茅野市という地域が形成されています。

八ヶ岳から市街地まで連続して繋がる、水と緑の連携軸※を保全していくことを前提として、自然的土地利用※と都市的土地利用※のバランスある発展を目指し、茅野市を取り巻く様々な状況の変化に的確に対応した土地利用を総合的、計画的に進めます。

※ 水と緑の連携軸：八ヶ岳の裾野から上川、宮川、柳川等主要水系に沿って市街地まで、約20kmにわたって連続する主要水系の「水」と段丘林や緑地等の「緑」のこと。

※自然的土地利用：農業用地や林業用地など、主に自然的状態による土地利用のこと。

※都市的土地利用：住宅地や工業用地、事務所・店舗用地、一般道路など、主に人工的施設による土地利用のこと。

1-2 土地利用の基本方針

ア 多様で豊かな自然環境、資源の保全・活用・継承

多様で豊かな自然環境、資源の保全・活用・継承土地利用にあたっては市域全体のバランスを重視するとともに、茅野市が誇る自然環境や原風景の保全と再生を図りながら未来に引き継いでいきます。

イ 量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進

農用地や森林等の自然的土地利用は、公益的機能を維持・継承していくことを基本とするとともに、治山・治水対策の推進や自然的、歴史的な既存資源の組み合わせ等により多機能で多面的な活用を推進します。

市街地等の都市的土地利用は、低・未利用地の有効活用や、防災施設等の社会基盤整備を図り、産業振興や中心市街地の活性化に配慮した適正な土地利用の転換による有効利用を推進します。また、歴史や文化と調和したうるおいとやすらぎのある空間の形成、個性と魅力ある良好な市街地の環境を創出します。

1-2 土地利用の基本方針

ウ 連続性のある土地利用と交流拠点の強化

茅野市の土地、水・緑等の自然は、連続性を有しているため、各地域の自然的・歴史的・文化的要素等のネットワークと交通網整備等の都市的ネットワークの強化を図り、市域全体の総合力を高めながら市域全体が調和して一体的に発展していくための土地利用を進めます。

エ 「住み手」から「創り手」へ、愛着と誇りの持てる地域づくり

少子高齢化の進行に伴い、地域力や市民力の低下が懸念される中で、活力あるコミュニティを維持しながら、「住み手」である市民が自ら「創り手」となってそれぞれの地域に応じた土地利用を考え、住む人々が安全に安心して暮らせる生活環境づくりに参加し、地域に愛着と誇りを持ち、これからも住み続けたいと感じる地域づくりを目指します。

1-2 土地利用の基本方針

オ 地域の総合力による活力あるまちづくりへの対応

市民が豊かに永続的に住み続けるためには、広域交通体系や情報化基盤整備、多様で豊かな地域資源の活用等により、交流拠点としての付加価値を高め、地域の総合力を高める必要があります。

地域の総合的な土地利用における付加価値を高めることにより、既存企業の育成や、地域住民や企業等の理解と協力を得ながら、市全体の土地利用に配慮した対応を進めます。

カ 土地所有者と地域、関係団体、行政とが連携し協働する計画的な土地利用

市域の大部分を占める豊かな森林等の自然資源を適切に保全、育成し、未来に継承し、誇りと愛着を持てる地域づくりなどを推進していくためには、地域コミュニティ活動も大きな役割を果たします。

自然環境と都市的機能が調和した、均衡ある持続可能な土地利用を計画的に進めるために、様々な土地利用の場面において、市民・地域・関係諸団体・行政が連携して推進します。

2 ゾーン別土地利用の方針

自然地形や土地利用形態等の地域特性から、茅野市の土地を「市街地ゾーン」、「緑と人の農住共生ゾーン」、「山岳・高原リゾートゾーン」の3つのゾーンに設定し、それぞれの土地利用の方針を定めます。

(1) 市街地ゾーン

現行の用途地域※の区域が該当し、主要幹線道路が集中する茅野駅周辺の中心市街地とその周辺地域及び大規模な住宅団地として開発された中大塩団地により構成される地域です。

市街地ゾーンの将来目標を「安全・安心な都市環境整備を通じた中心市街地としての集積性強化」とし、都市機能が集積する拠点として、当ゾーン内に分布する災害リスクに対する安全・安心を確保し、既成の市街地における土地利用の再編や、低・未利用地の有効活用等を通じて、都市機能や居住環境整備を図り、都市景観の形成に配慮した土地の有効利用を進め、効率的で賑わいのある市街地の形成を図ります。

※用途地域：都市計画法で定められる地域地区の一つ。住居地や商業地、工業地など大枠としての土地利用を定めている。

※農業振興地域：将来的に農業上の利用を確保すべき土地として指定した区域のこと。

土地利用構想 2 ゾーン別土地利用の方針 (2)

(2) 緑と人の農住共生ゾーン

農業振興地域※の区域が該当し、八ヶ岳連峰の裾野に広がる広大な農用地の中に集落や新興住宅地、工業団地等が点在し、大泉山、小泉山などの豊かな自然環境と、尖石遺跡等の歴史遺産を有する農村集落地域です。

緑と人の農住共生ゾーンの将来目標を「身近な自然にふれあう安全・快適な緑住まちづくり」とし、優良農用地の保全と既存の農村集落や新興住宅地の土地利用形態を維持しつつ、都市と農村の交流の場、歴史文化の交流の場としての活用等、自然的土地利用と都市的土地利用の調和を図るとともに、田舎暮らし等の移住・定住先としての形成を図ります。

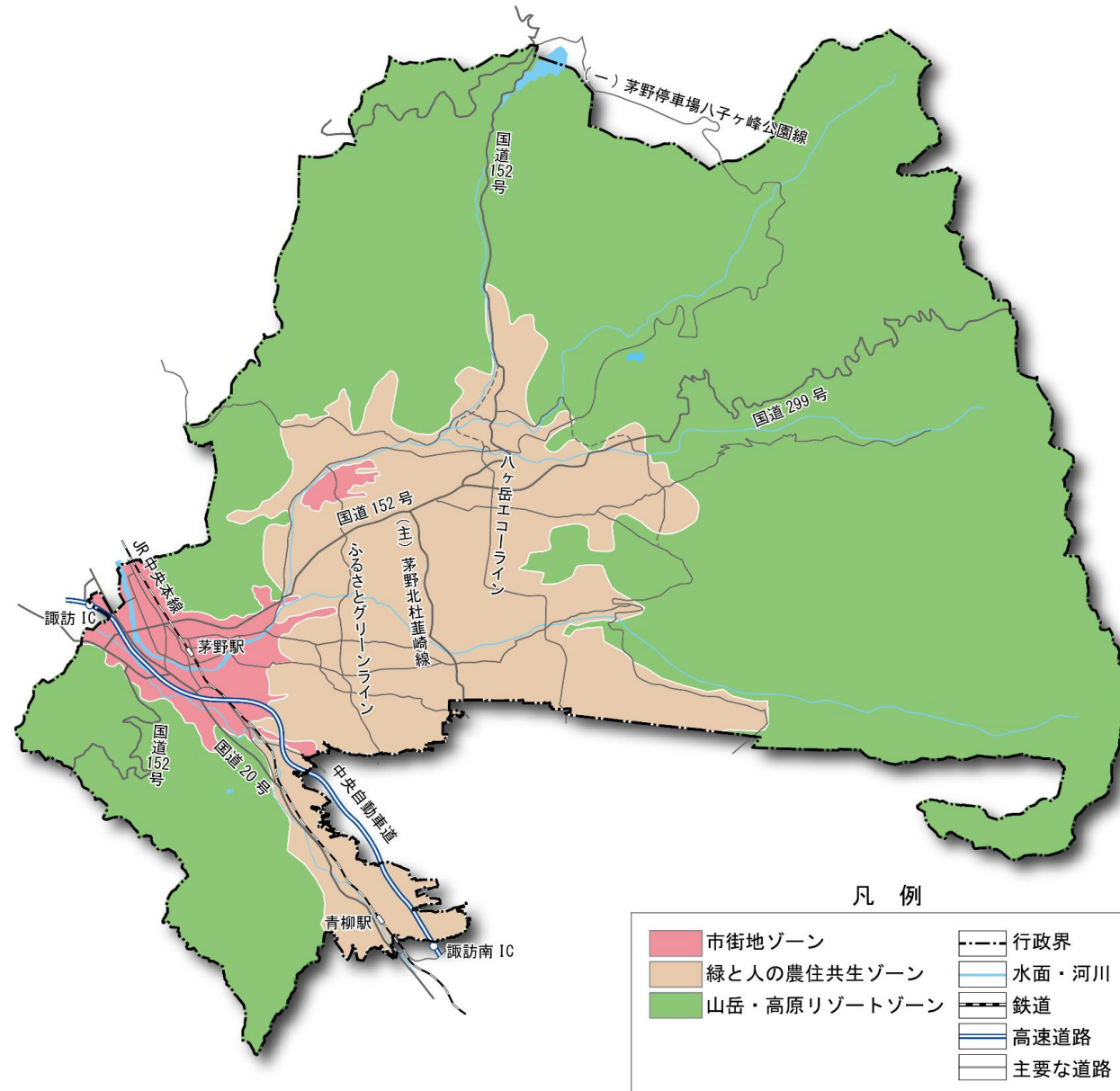
(3) 山岳・高原リゾートゾーン

八ヶ岳中信高原国定公園を含む高山・亜高山帯及び別荘地等の森林交流地を含む山林地が該当し、東部の八ヶ岳連峰から、蓼科山、北部の車山、さらに西北部の永明寺山まで連なる広大な山地と、西南部の西山山地からなり、豊かな自然環境・生態系を有し、大部分を急峻な山岳地域や森林地域が占める地域です。

山岳・高原リゾートゾーンの将来目標を「優れた環境の保全と創造的な環境共生まちづくり」とし、高山・亜高山帯における厳正な自然環境の保全及び森林交流地の機能整備と適正な配置を図り、環境共生型の魅力ある高原リゾート地を目指します。

※農業振興地域：将来的に農業上の利用を確保すべき土地として指定した区域のこと。

土地利用構想 土地利用ゾーニング



資料編

- 計画策定関連資料
- 土地利用構想
- 各種データ

エビデンスとなる統計データ等を入れ込みます。

地域幸福度(Well-Being)指標について ①

まちづくりの目的にフォーカス

第6次総合計画では、**幸せを実現できるまち** を普遍的なテーマ(目的)に据えています。

人が幸せを実現できる ≡ 人が幸せを感じる

と捉え、普遍的テーマ(目的)の達成に向けて、国が示す **Well-Being** の考え方と **地域幸福度指標** を取り入れて、取組を評価していきたいと考えています。

人が幸せを感じる行動や環境を概ね行政分野ごとに導き出し、指標化したもの。その指標(満足度など)の向上を意識し、施策、事業を展開することにより、幸せを感じる人の増加を目指します。

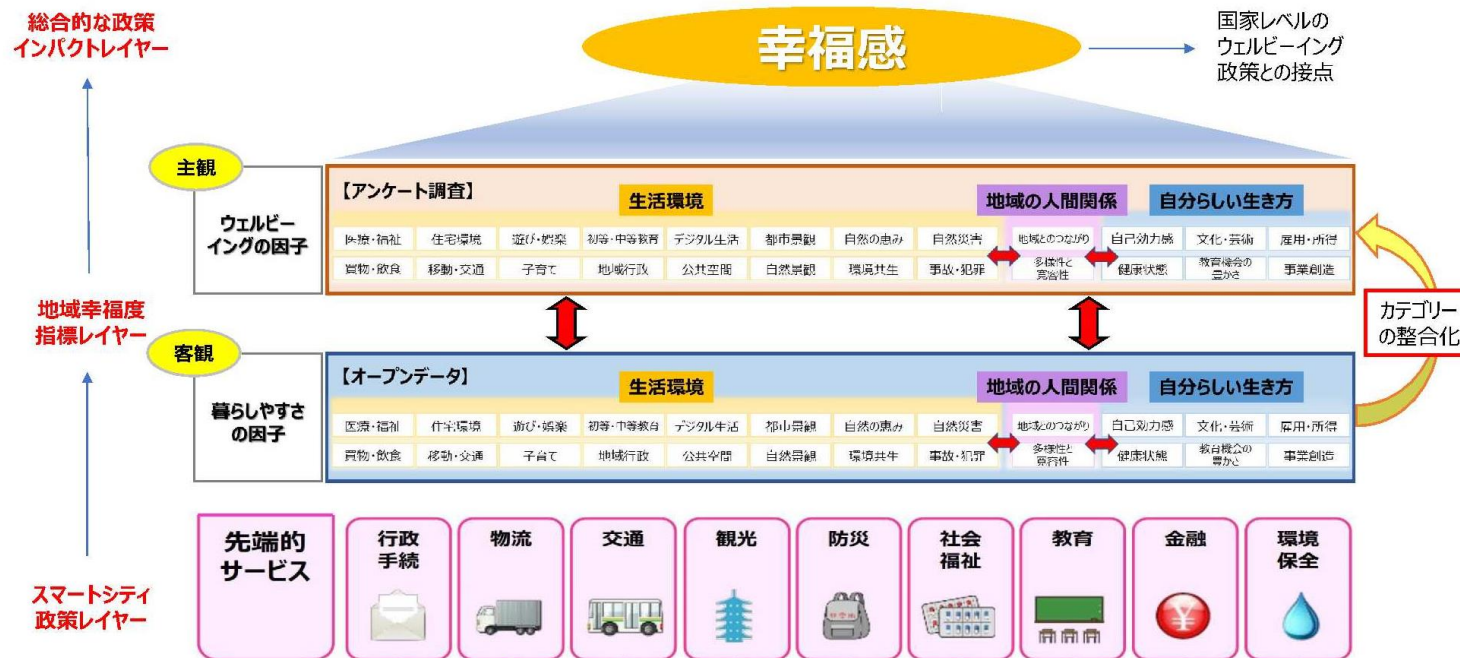
⇒ **幸せを実現できるまち**

地域幸福度(Well-Being)指標について ②

- 地域幸福度(Well-Being)指標は、**主観指標**と**客観指標**から成ります。
- 主観指標はアンケート、客観指標は統計データ、KPIで計測します。

地域幸福度(Well-Being)指標の全体構成図 ~ 主観・客観データの構造

- 地域幸福度指標は、各地域における政策と、その政策インパクトとして現れる市民の幸福感とを結びます。
- 主観指標と客観指標を同じ因子構成とすることで主観と客観の紐づけを簡素化し、因子間の関連から各自治体が注目すべき因子の抽出が可能です。

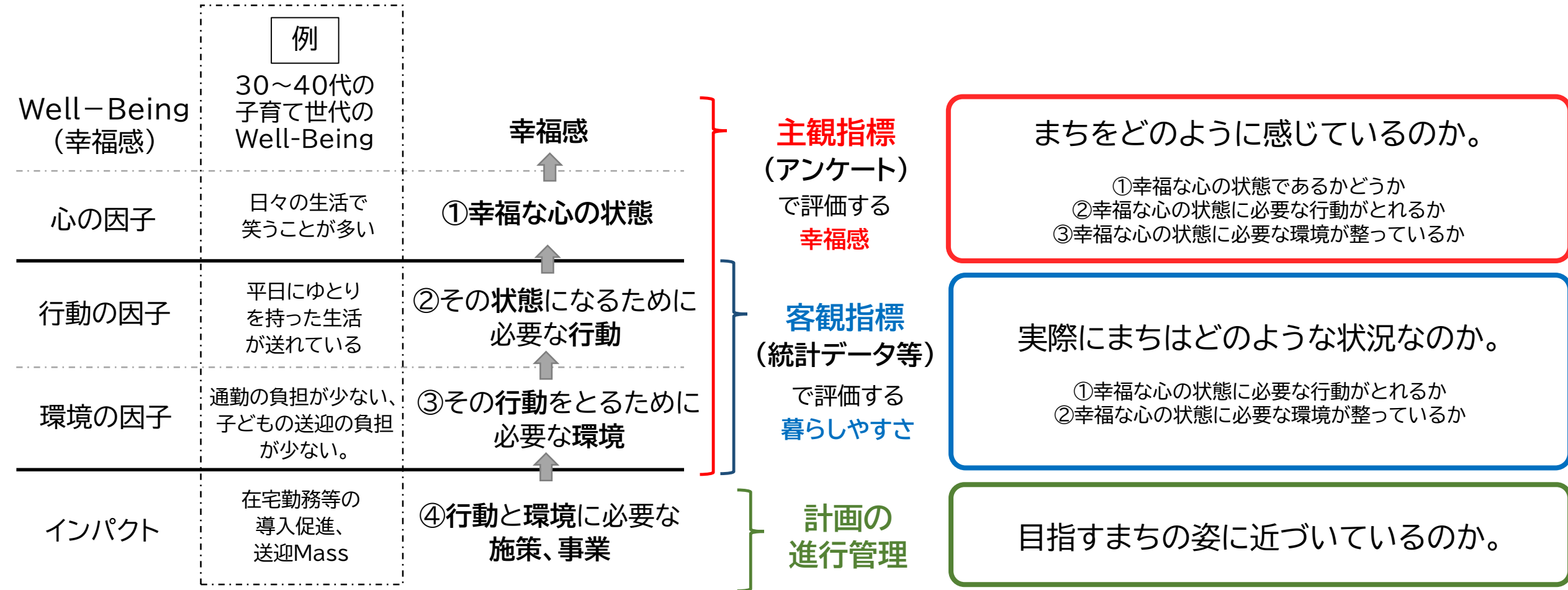


最先端サービスの図: https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/tihousousei_setumeikai/pdf/r02-07-21-shiryuu12.pdf

12

地域幸福度(Well-Being)指標について ③

幸福のシナリオ(ロジックツリー)と地域幸福度(Well-Being)指標との関係



地域幸福度(Well-Being)指標について ④

- 主観指標、客観指標ともに国と民間団体が計測していますが、主観指標については、サンプル数が少ないため、精度を高めるため、自治体独自での実施が推奨されています。

地域幸福度(Well-Being)指標 ～ 偏差値

- 地域幸福度(Well-Being)指標では、偏差値化した主観指標・客観指標を使用します。
- 偏差値化の狙いは、まちの特徴をグラフの凹凸の形で読み取れるようにすることです。
(計測単位の異なるKPI同士は、単純な数値の比較では特徴を読み取ることができません。例えば、交通事故件数1,000件(偏差値60)と、健康寿命75歳(偏差値50)は、数値同士では直接の比較はできませんが、偏差値化すれば比較可能です。)
- 客観指標は、人口10万人以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出しています。人口10万人未満の都市については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出しています。数値の高い方が悪い状態を表す一部のKPI(交通事故件数等。該当KPIはKPIカタログ参照)については、数値が高いほど偏差値が低くなるように計算式を修正しています。
- 主観指標は、人口10万人以上かつ回答数100以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出しています。人口10万人未満または回答数100未満については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出しています。
- 多くの人に馴染み深い「偏差値」という言葉が、「競争」や「ランキング」を想起させがちですが、自治体同士の過度な比較は避け、自身のまちの特徴を読み取ることを主目的としてください。

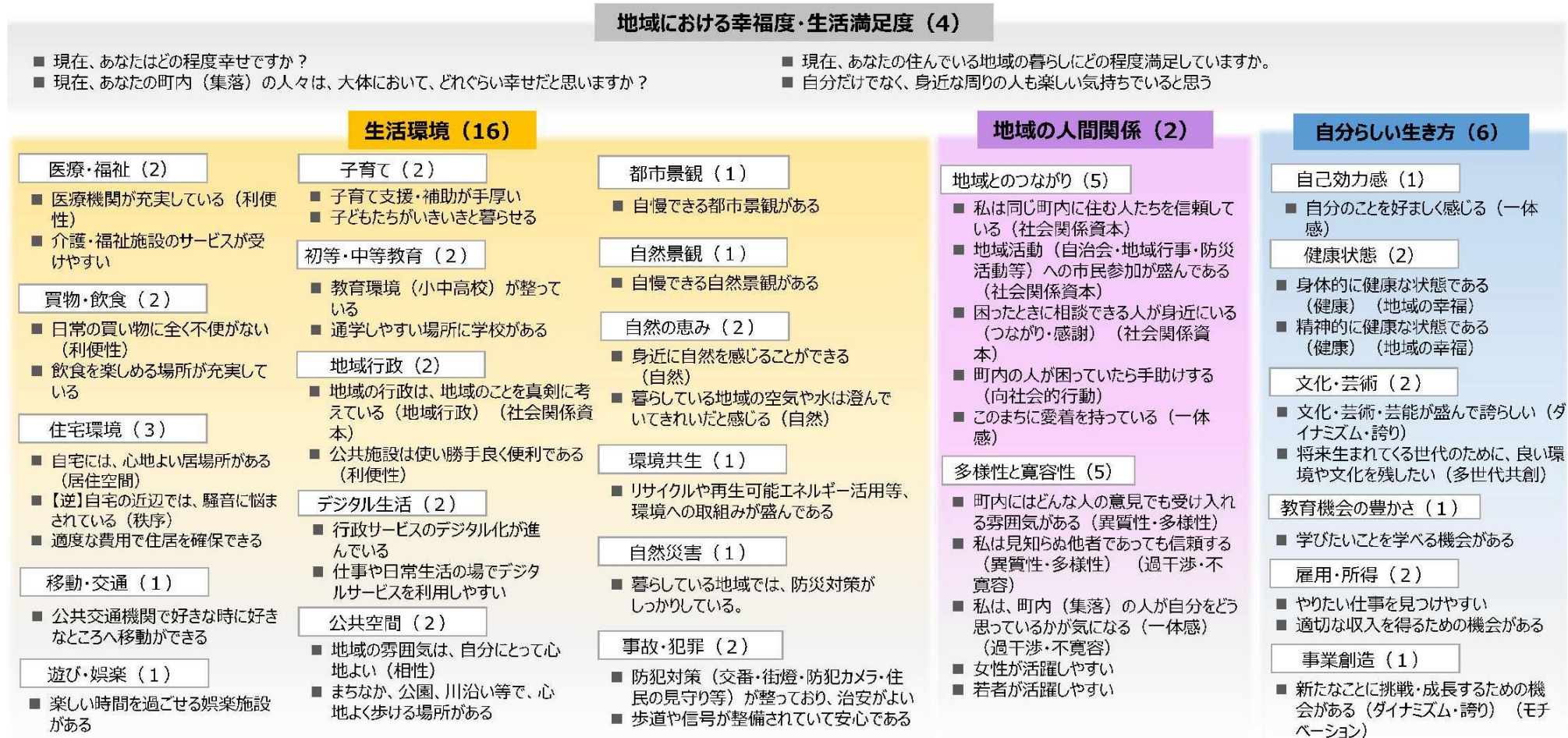
■ 偏差値計算式

$$(\text{偏差値}) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

(↑数値が高いほど悪い状態を表すKPIについてはマイナスを使用)

主観指標について

- 主観指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方)から構成されます。
- 因子群は、合計24のカテゴリーに細分化されます。



客観指標について

- 客観指標は、主観指標における地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問を除いた、3つの因子群(生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方)から構成されます。
- 因子群は、合計24のカテゴリーに細分化されます。

生活環境 (16)

<p>医療・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 医療施設徒歩圏人口カバー率 ■ 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-) ■ 人口あたり国保医療費 (-) ■ 人口あたり後期高齢者医療費 (-) ■ 特定健康診断受診率 ■ 福祉施設徒歩圏人口カバー率 ■ 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-) ■ 人口あたり児童福祉施設数 ■ 人口あたり障害者施設支援数 ■ 人口あたり認知症サポーター・メイト・サポーター数 <p>買物・飲食</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 商業施設徒歩圏人口カバー率 ■ 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-) ■ 可住地面積あたりの飲食店数 ■ 人口あたり飲食店数 <p>住宅環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 住宅あたり延べ面積 ■ 平均価格(住宅地) (-) ■ 専用住宅1m²あたり家賃 (-) ■ 一戸建の持ち家の割合 <p>移動・交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 ■ 駅およびバス停留所徒歩圏人口密度 (-) ■ 人口あたり小型車走行キロ (-) ■ 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合 ■ 職場までの平均通勤時間 (-) 	<p>遊び・娯楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人口あたり娯楽業(映画館、劇場、スポーツ施設等)の事業所数 <p>子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 保育所まで1km未満の住宅割合 ■ 可住地面積あたり幼稚園数 ■ 施設あたり幼稚園児数 (-) ■ 人口あたり待機児童数 (-) ■ 歳出総額における教育費の構成比 ■ 合計特殊出生率 <p>初等・中等教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 可住地面積あたり小学校数 ■ 可住地面積あたり中学校数 ■ 可住地面積あたり高等学校数 ■ 施設あたり小学生数 (-) ■ 施設あたり中学生数 (-) ■ 施設あたり高校生数 (-) <p>地域行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人口あたり体育施設利用者数 ■ 人口あたり図書館帯出者数 ■ 人口あたり博物館入館者数 ■ 地域財政指数 <p>デジタル生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体DX指数 ■ デジタル政策指数 ■ デジタル生活指数 	<p>公共空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 公園緑地徒歩圏人口カバー率 ■ 人口あたり公園の面積 ■ 歩道設置率 ■ ウォーカブル指数 <p>都市景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 都市景観指数 <p>自然景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自然景観指数 <p>自然の恵み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 食料生産ポテンシャル ■ 水供給ポテンシャル ■ 木材供給ポテンシャル ■ 炭素吸収量 ■ 蒸発散量 ■ 地下水涵養量 ■ 土壌流出防止量 ■ 窒素除去量 ■ リン酸除去量 ■ NO₂吸収量 ■ SO₂吸収量 ■ 洪水調整量 ■ 表層崩壊からの安全率 ■ 緑地へのアクセス度 ■ 水域へのアクセス度 ■ オートキャンプ場への立地 	<p>環境共生</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NO_x平均値 (-) ■ PM_{2.5}年平均値 (-) ■ ゴミのリサイクル率 ■ 人口あたり年間CO₂排出量 (-) ■ 人口あたり再生エネルギー発電量 ■ 環境政策指数 <p>自然災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 外水氾濫危険度 ■ 高潮危険度 ■ 土砂災害危険度 ■ 地震動危険度 ■ 津波危険度 ■ ハード対策 ■ 避難・救助 ■ 要配慮者支援 ■ 防災教育 ■ 防災まちづくり ■ 情報・デジタル防災 <p>事故・犯罪</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人口あたり交通事故件数* (-) ■ 人口あたり刑法犯認知件数* (-) ■ 空家率 (-) <p style="font-size: small;">指数を構成するKPIはP14~15を参照 *各都道府県・市区町村HP等から取得 (-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出</p>
--	--	---	---

客観指標について

地域の間関係 (2)

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自分らしい生き方 (6)

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命 (平均自立期間) (男性)
- 健康寿命 (平均自立期間) (女性)

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財 (建造物) の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

選択解除

検索

- 長野県小諸市
- 長野県伊那市
- 長野県駒ヶ根市
- 長野県中野市
- 長野県大町市
- 長野県飯山市
- 長野県茅野市
- 長野県塩尻市
- 長野県佐久市

区（政令市の主観のみ有効）

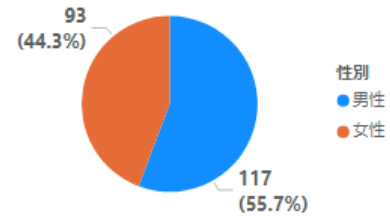
解除

すべて

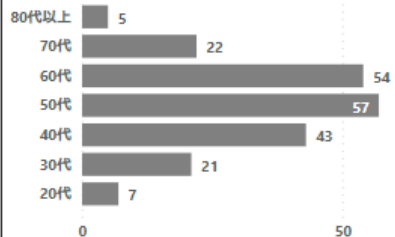
回答者数

211

性別

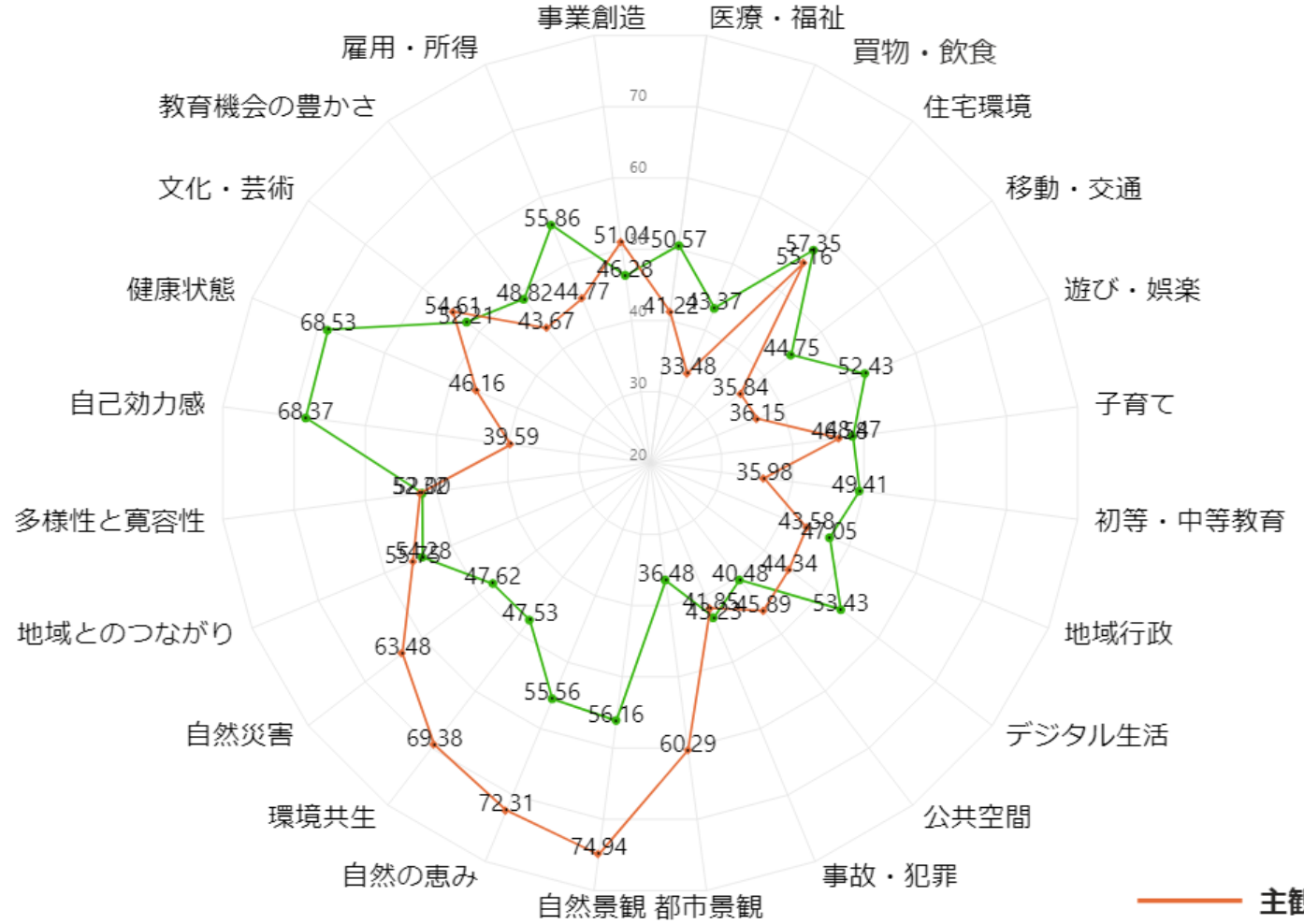


年代



茅野市

人口 約55,000人



<客観データに関する注意>

本ツールの仕様上、客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態（=全ての自治体を選んでる状態と同じ）や都道府県を選んでる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

選択解除

検索

- 長野県大町市
- 長野県飯山市
- 長野県茅野市
- 長野県塩尻市
- 長野県佐久市
- 長野県千曲市
- 長野県東御市
- 長野県安曇野市
- 長野県小海町

区（政令市の主観のみ有効）

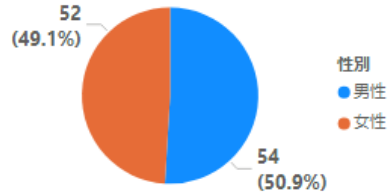
解除

すべて

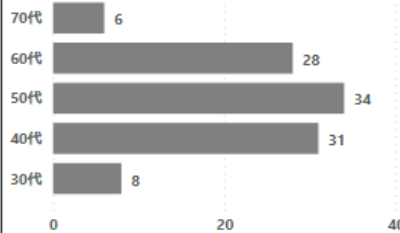
回答者数

108

性別

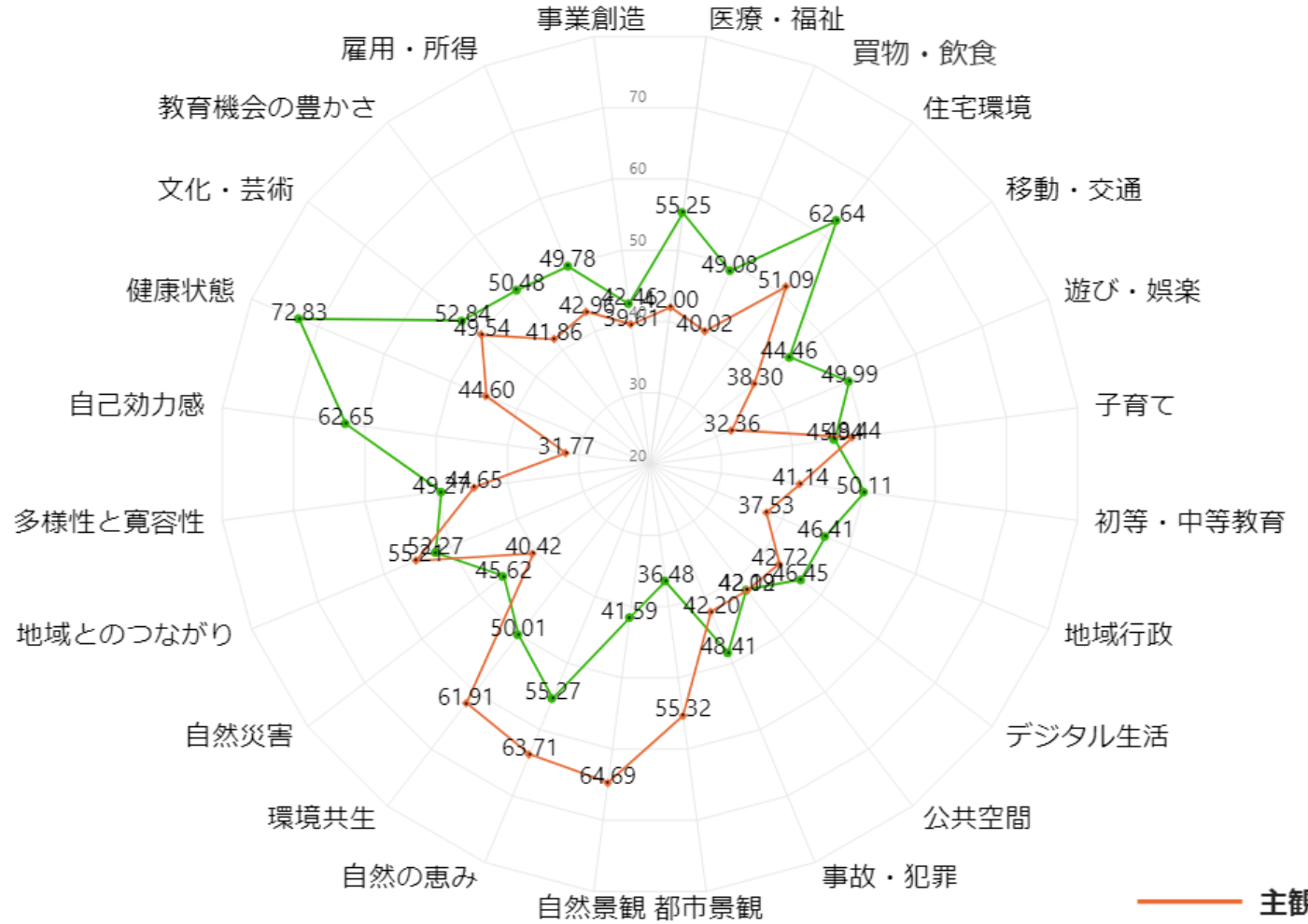


年代



千曲市

人口 約59,000人



<客観データに関する注意>

本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。**左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでいる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

選択解除

検索

- 01 北海道
- 02 青森県
- 03 岩手県
- 04 宮城県
- 05 秋田県
- 06 山形県
- 07 福島県
- 08 茨城県
- 09 栃木県

区（政令市の主観のみ有効）

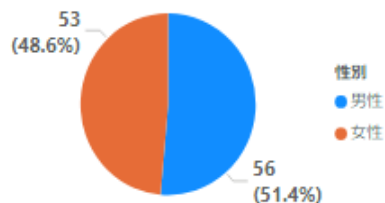
解除

すべて

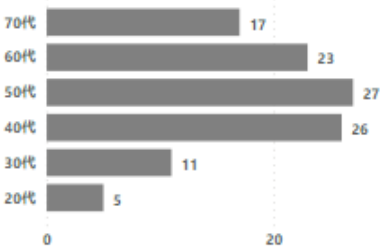
回答者数

110

性別

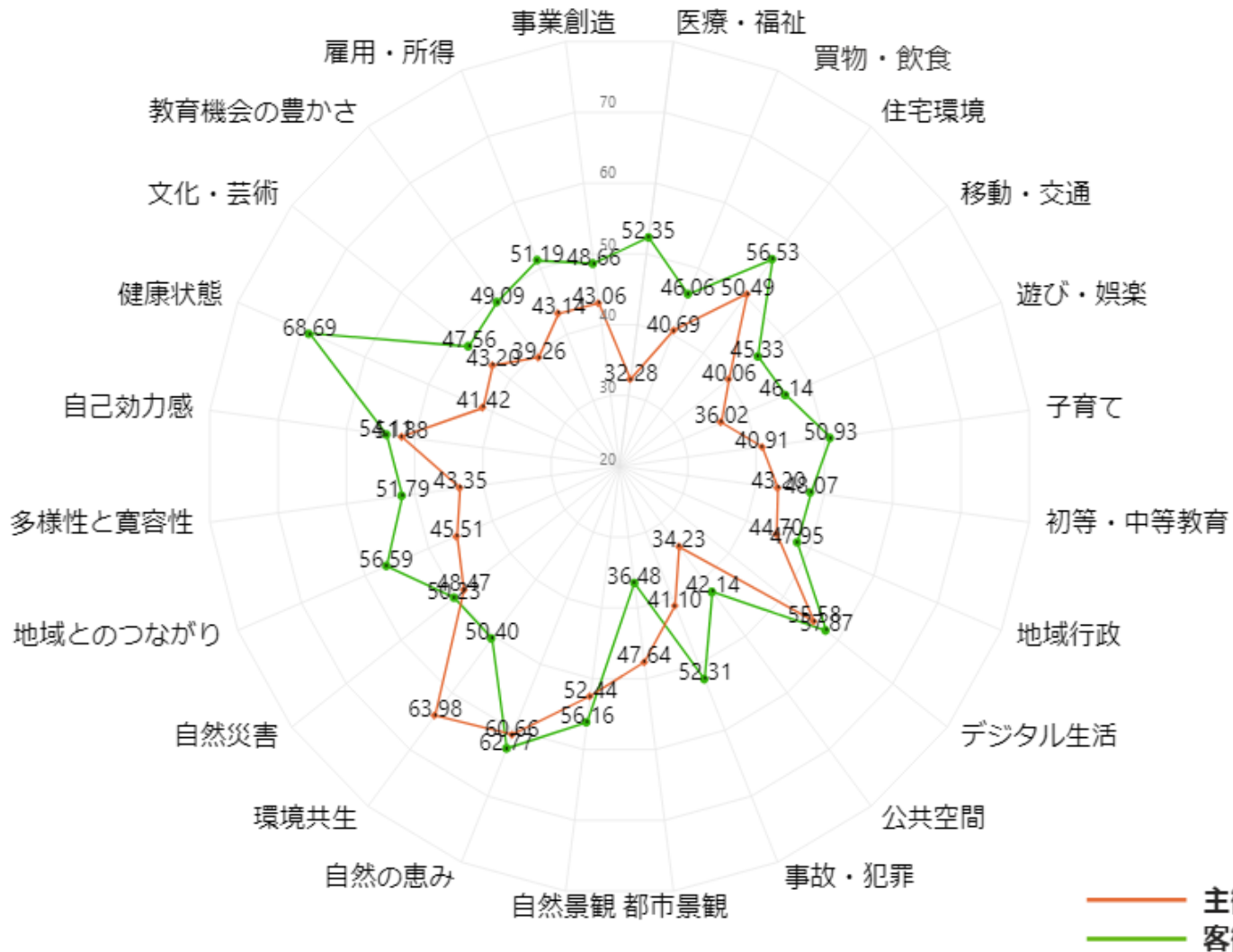


年代



塩尻市

人口 約67,000人



<客観データに関する注意>

本ツールの仕様上、客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態（=全ての自治体を選んでいる状態と同じ）や都道府県を選んでいる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート

因子別

自治体

検索

選択解除

- 17 石川県
- 18 福井県
- 19 山梨県
- 20 長野県

- 長野県長野市
- 長野県松本市
- 長野県上田市
- 長野県岡谷市
- 長野県飯田市

区 (政令市の主観のみ有効)

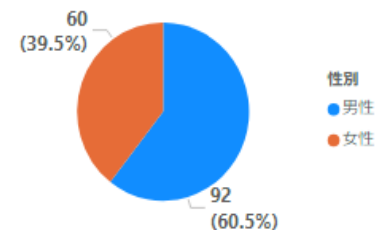
解除

すべて

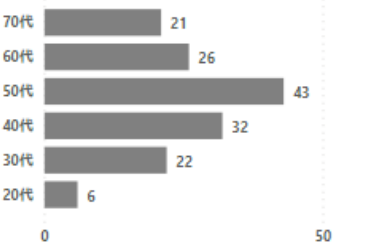
回答者数

153

性別

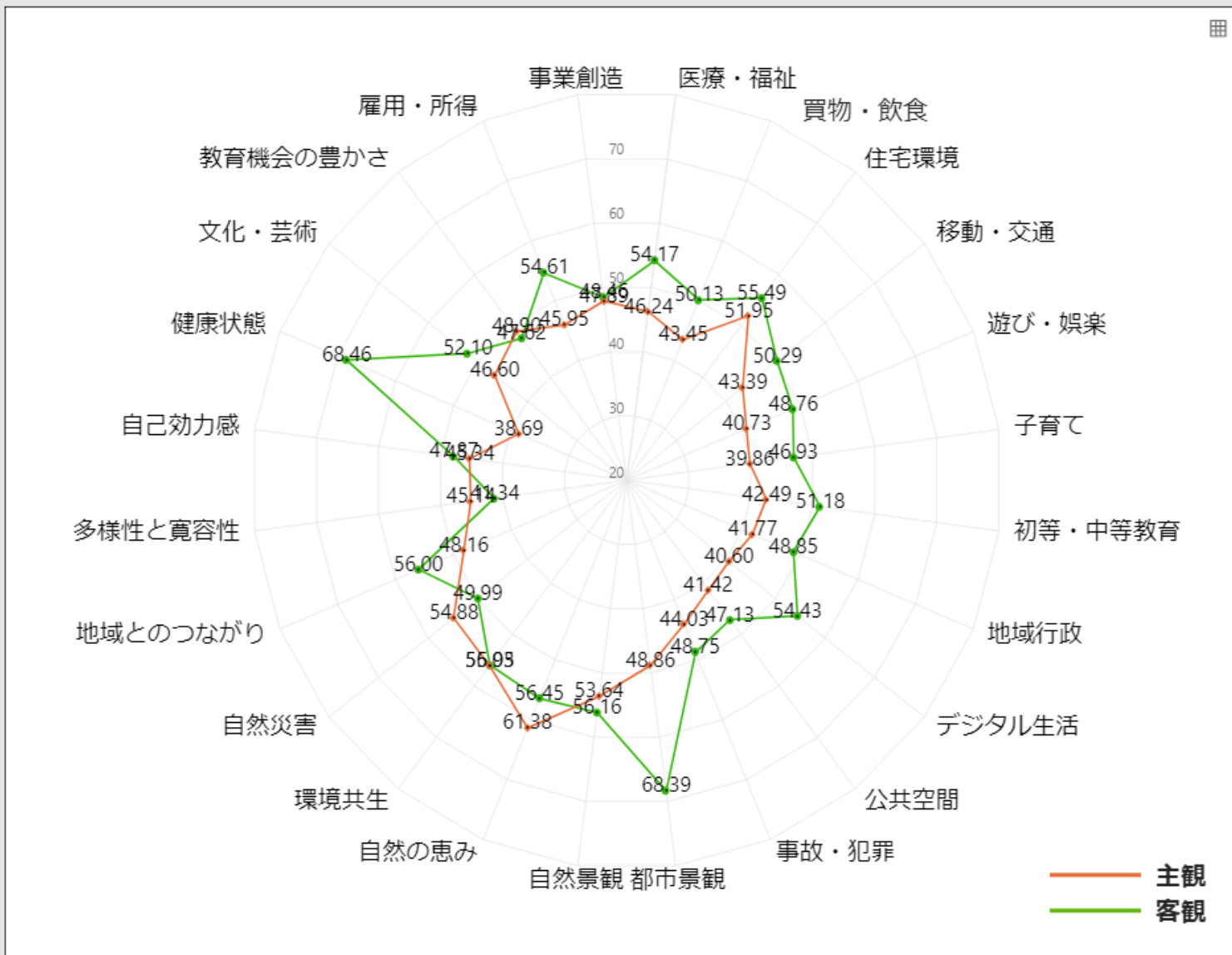


年代



長野市

人口 約378,000人



<客観データに関する注意>
 本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。**左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでいる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

検索

選択解除

- 17 石川県
- 18 福井県
- 19 山梨県
- 20 長野県

- 長野県長野市
- 長野県松本市
- 長野県上田市
- 長野県岡谷市
- 長野県飯田市

区（政令市の主観のみ有効）

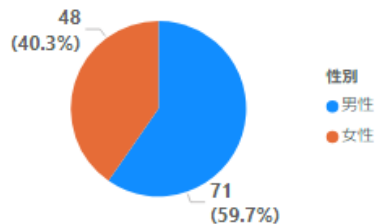
解除

すべて

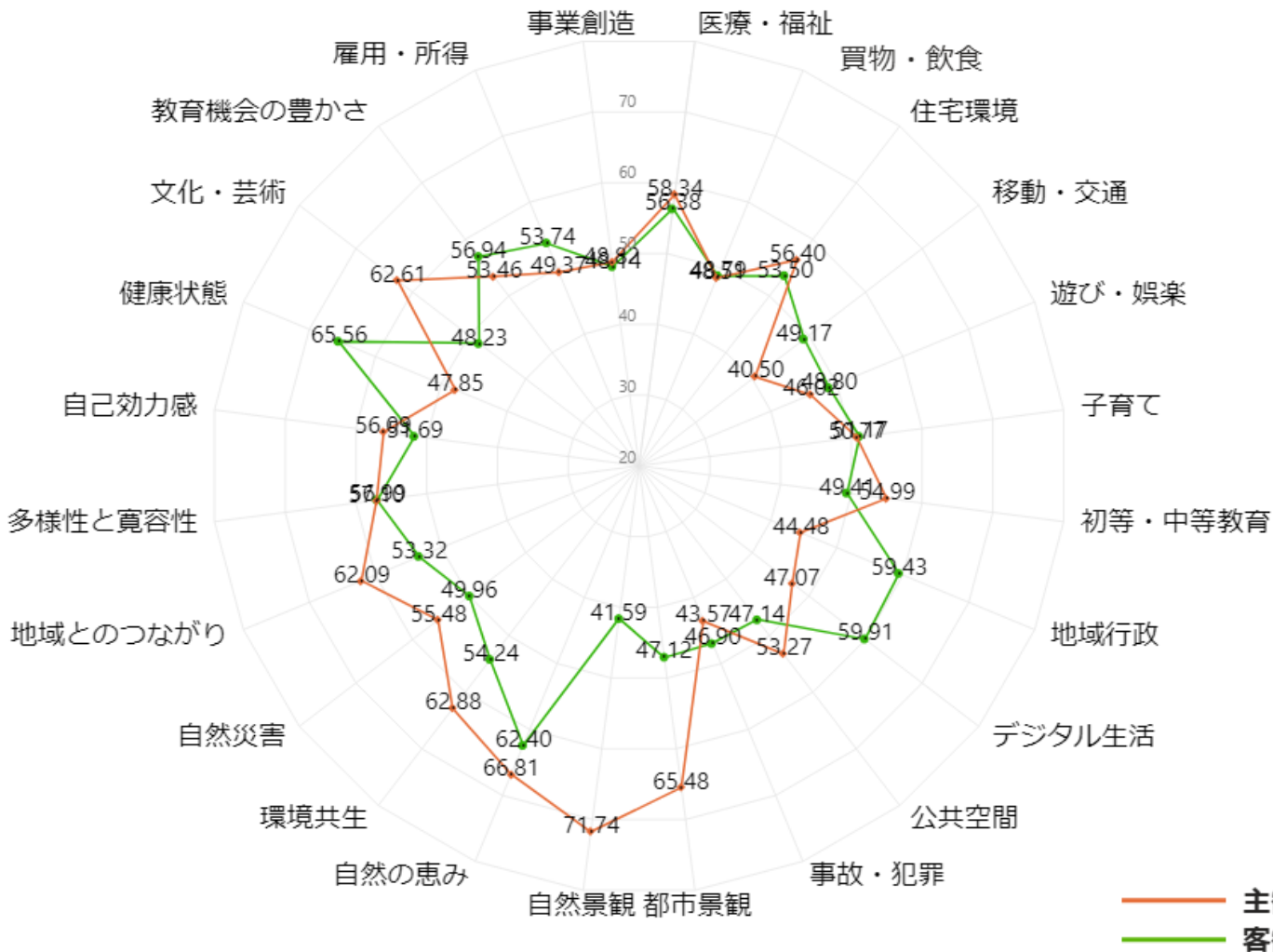
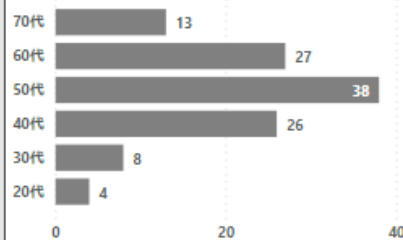
回答者数

119

性別



年代



<客観データに関する注意>

本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。**左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

松本市

人口 約243,000人

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

検索

選択解除

- 17 石川県
- 18 福井県
- 19 山梨県
- 20 長野県

- 長野県長野市
- 長野県松本市
- 長野県上田市
- 長野県岡谷市
- 長野県飯田市

区（政令市の主観のみ有効）

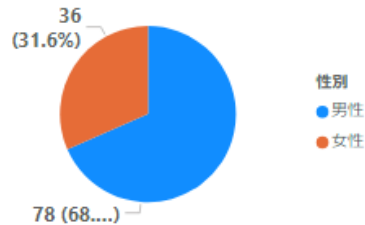
解除

すべて

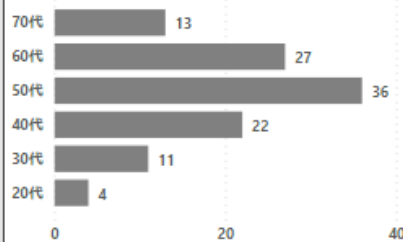
回答者数

114

性別

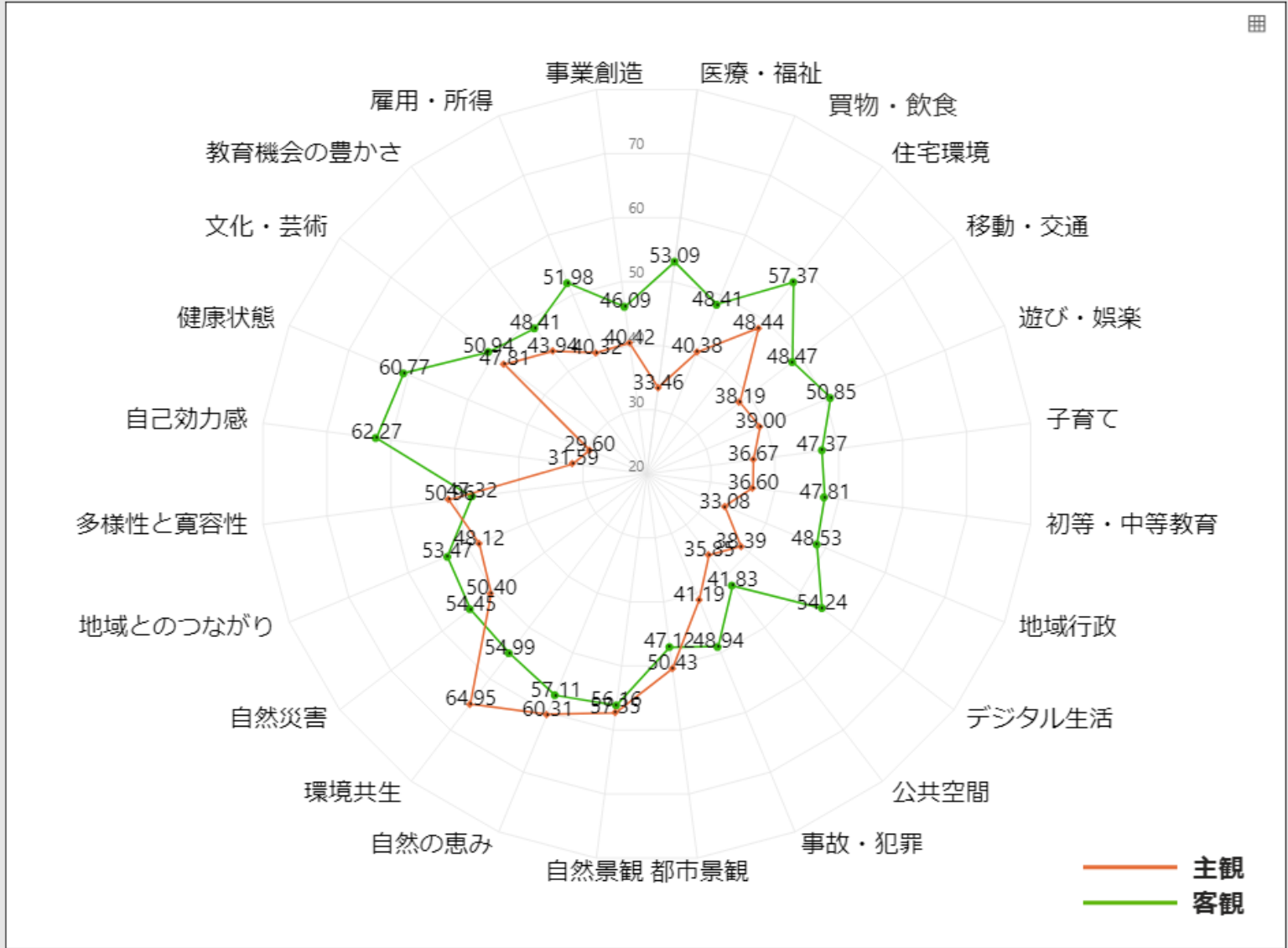


年代



上田市

人口 約157,000人



<客観データに関する注意>

本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。**左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでいる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

検索

選択解除

- 長野県飯山市
- 長野県茅野市
- 長野県塩尻市
- 長野県佐久市
- 長野県千曲市
- 長野県東御市
- 長野県安曇野市
- 長野県小海町
- 長野県川上村

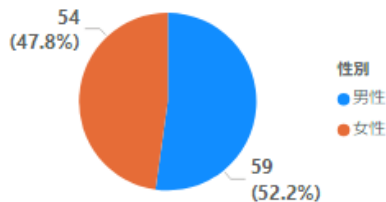
区（政令市の主観のみ有効） 解除

すべて

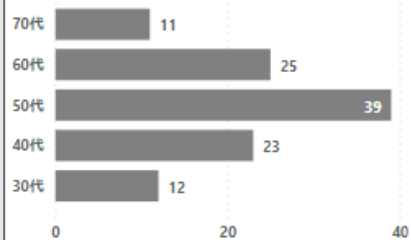
回答者数

113

性別

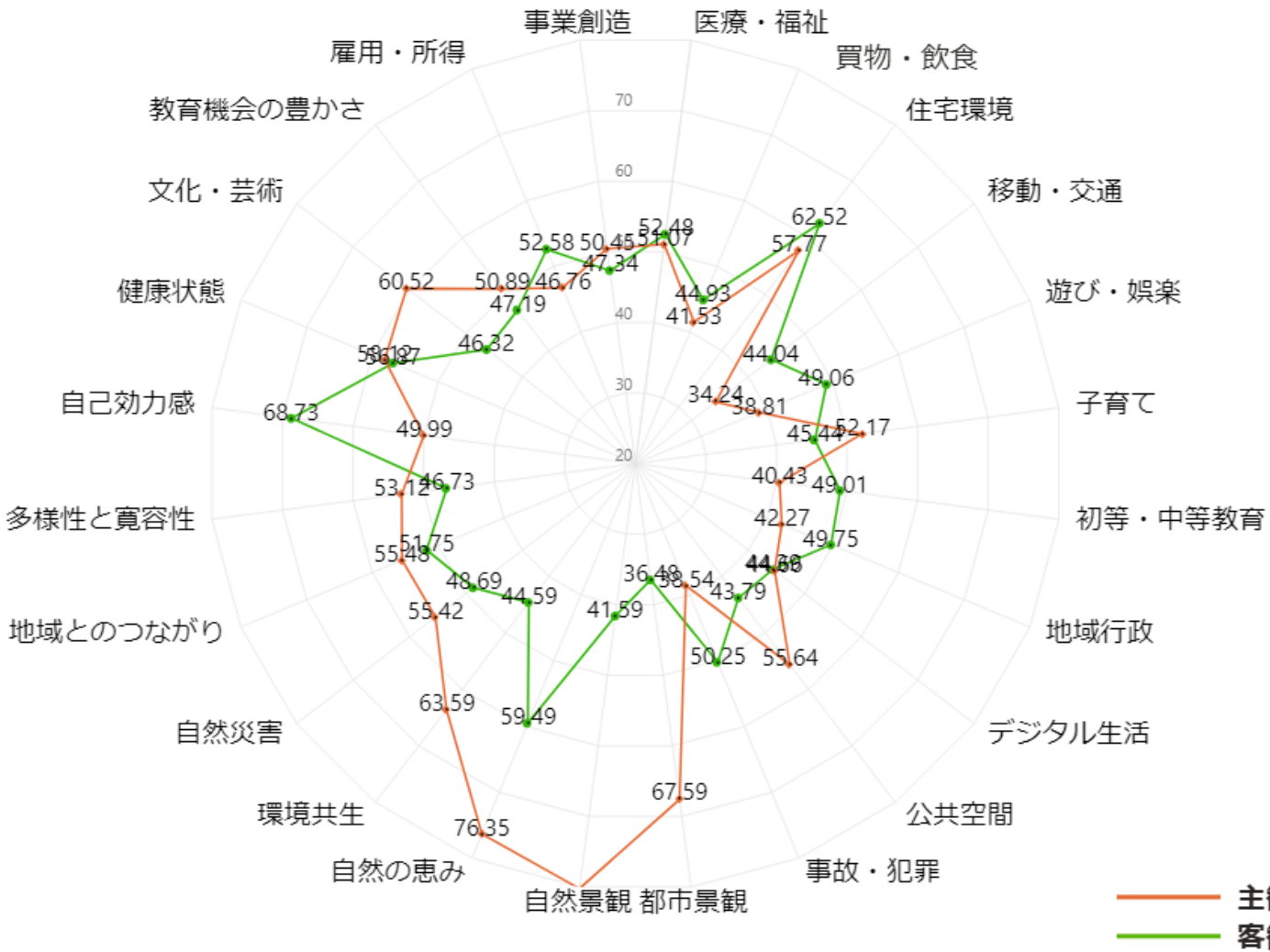


年代



安曇野市

人口 約99,000人



<客観データに関する注意>
 本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値**が表示されます。左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

Well-Beingアンケート 因子別

自治体

選択解除

検索

- 長野県駒ヶ根市
- 長野県中野市
- 長野県大町市
- 長野県飯山市
- 長野県茅野市
- 長野県塩尻市
- 長野県佐久市
- 長野県千曲市
- 長野県東御市

区（政令市の主観のみ有効）

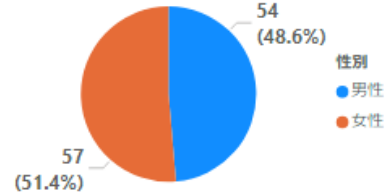
解除

すべて

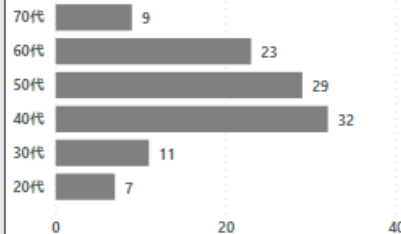
回答者数

112

性別

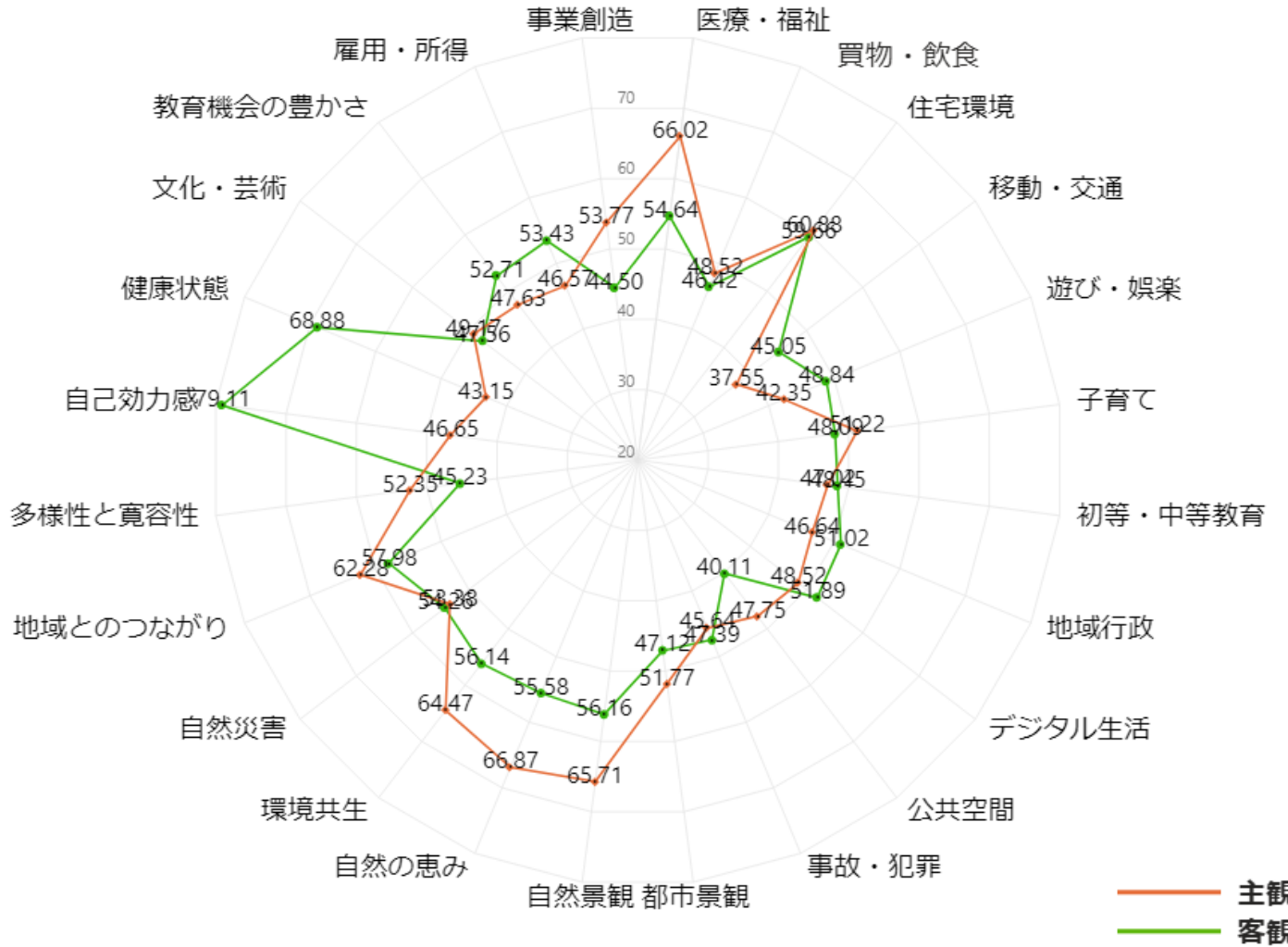


年代



佐久市

人口 約98,000人



<客観データに関する注意>

本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確**な値が表示されます。左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

令和4年度実施「市民意識調査」(アンケート調査)の結果 ※別紙

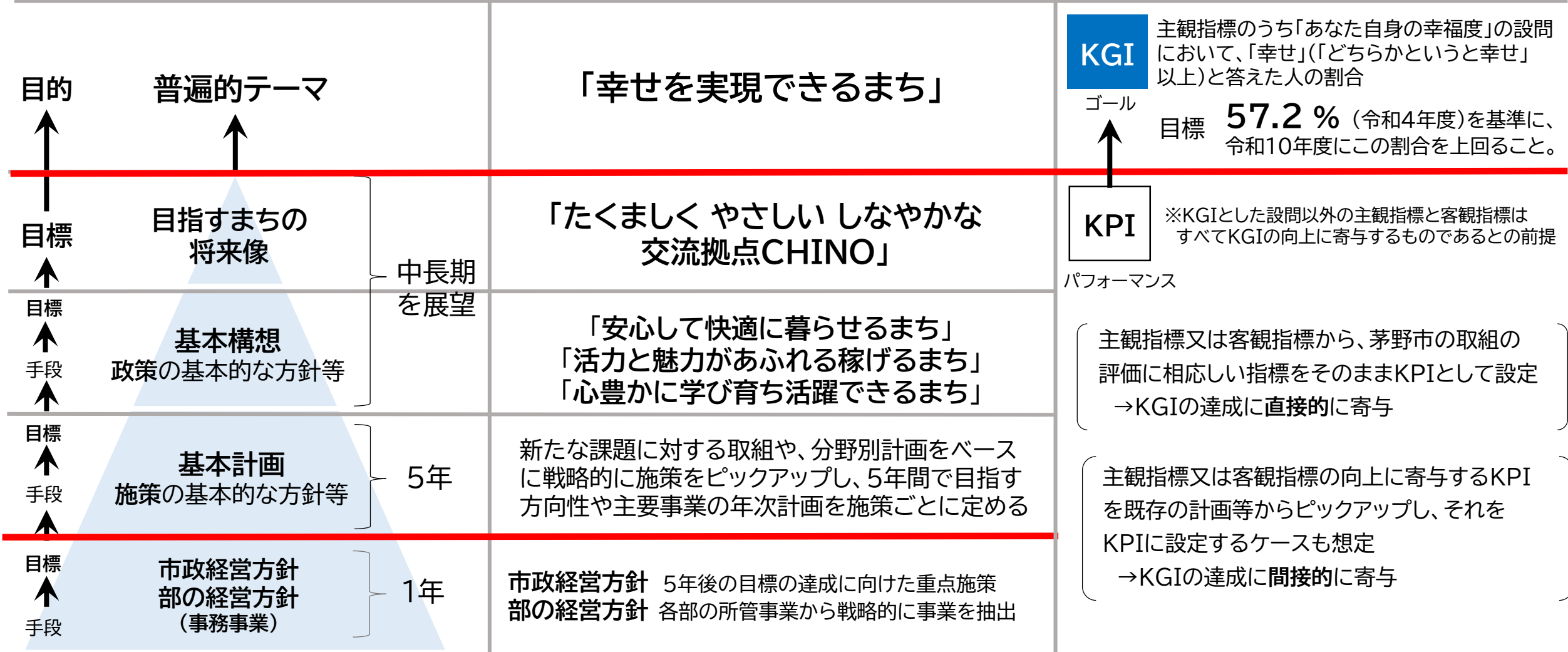
- 令和4年度茅野市では、国交付金採択の要件であったLWC指標による「市民意識調査」を実施しました。
- 国は、この調査を実施した全国の自治体からの意見等を参考に、令和5年度にLWC指標の改定版を「標準モデル」として導入し、**地域幸福度(Well-Being)指標**(前述)と定義しました。
- 今後茅野市は、この指標と既存の指標を組み合わせながら、総合計画の進行管理を行います。

地域幸福度(Well-Being)指標 ～ LWC指標からの改定経緯

- デジタル田園都市国家構想の目指す「心ゆたかな暮らし」(Well-Being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)の実現に向けた取組の指標として、デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、行政だけでなく産官学、市民を含めた様々なプレイヤーの協力を引き出すツールとして、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが開発したLiveable Well-Being City指標(以後“LWC指標”)を活用
- 2022年7月1日に、これまでの検討結果を踏まえた客観指標(22因子93KPI)、主観指標(アンケート項目160問)により構成されるLWC指標を公開
URL <https://www.digital.go.jp/news/26c0d00b-6625-4e77-8b53-cebcba76a268/>
- 令和3年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金デジタル実装タイプType2/3採択団体において、LWC指標を活用
- 活用頂いた自治体より、包括性・俯瞰性について評価を頂くも、質問数の多さと複雑さから負担が大きいとのフィードバックあり。更なる活用促進の観点から負担感軽減を目指し、50問のみから構成される改訂版を「標準モデル」として令和5年より導入。本改訂版では指標を、地域幸福度(Well-Being)指標と定義

総合計画の進行管理への活用方法

第6次茅野市総合計画の構成



令和4年度茅野市 市民意識調査 集計結果

1 調査の概要

対象者:茅野市内に居住する満18歳以上の男女2,000人(住民基本台帳から無作為抽出)
 調査期間:2023年1月10日(火)~1月31日(火)
 調査方法:紙による調査票またはインターネット(アンケートフォームへの入力)による回答

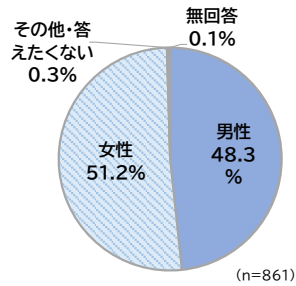
2 回収結果

有効回収数:861人
 有効回収率:43.0%

3 調査結果

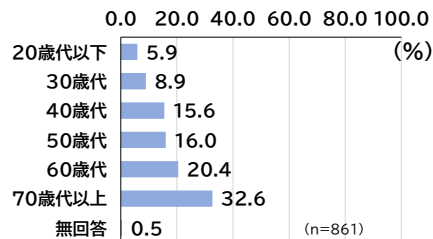
問1 あなたの性別を教えてください(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
男性	416	48.3
女性	441	51.2
その他・答えたくない	3	0.3
無回答	1	0.1
合計	861	100.0



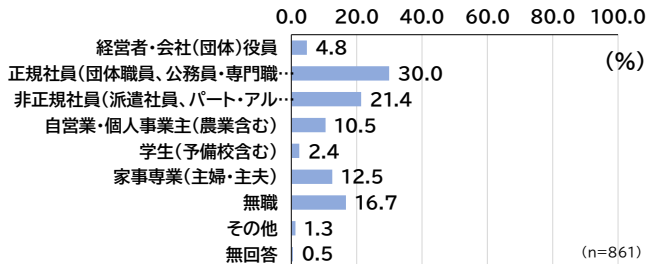
問2 あなたの年齢を教えてください(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
20歳代以下	51	5.9
30歳代	77	8.9
40歳代	134	15.6
50歳代	138	16.0
60歳代	176	20.4
70歳代以上	281	32.6
無回答	4	0.5
合計	861	100.0



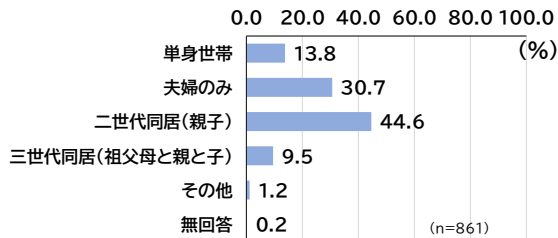
問3 あなたの職業を教えてください(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
経営者・会社(団体)役員	41	4.8
正規社員(団体職員、公務員・専門職含む)	258	30.0
非正規社員(派遣社員、パート・アルバイト含む)	184	21.4
自営業・個人事業主(農業含む)	90	10.5
学生(予備校含む)	21	2.4
家事専業(主婦・主夫)	108	12.5
無職	144	16.7
その他	11	1.3
無回答	4	0.5
合計	861	100.0



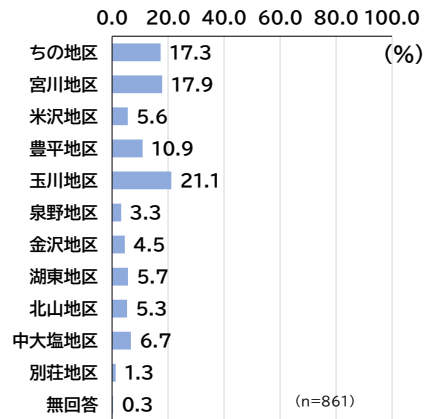
問4 世帯構成を教えてください(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
単身世帯	119	13.8
夫婦のみ	264	30.7
二世帯同居(親子)	384	44.6
三世帯同居(祖父母と親と子)	82	9.5
その他	10	1.2
無回答	2	0.2
合計	861	100.0



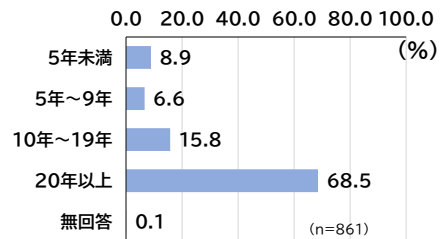
問5 お住まいの地区を教えてください(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
ちの地区	149	17.3
宮川地区	154	17.9
米沢地区	48	5.6
豊平地区	94	10.9
玉川地区	182	21.1
泉野地区	28	3.3
金沢地区	39	4.5
湖東地区	49	5.7
北山地区	46	5.3
中大塩地区	58	6.7
別荘地区	11	1.3
無回答	3	0.3
合計	861	100.0



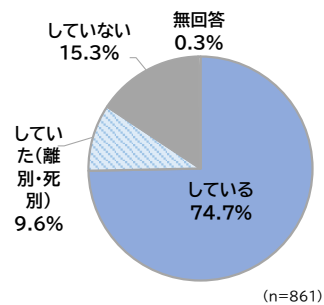
問6 茅野市には何年くらいお住まいですか(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
5年未満	77	8.9
5年～9年	57	6.6
10年～19年	136	15.8
20年以上	590	68.5
無回答	1	0.1
合計	861	100.0



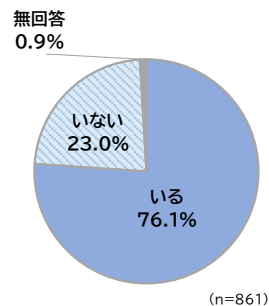
問7 あなたは結婚されていますか(事実婚を含む)(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
している	643	74.7
していた(離別・死別)	83	9.6
していない	132	15.3
無回答	3	0.3
合計	861	100.0



問8 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか(1つに○)

選択肢	度数	割合(%)
いる	655	76.1
いない	198	23.0
無回答	8	0.9
合計	861	100.0

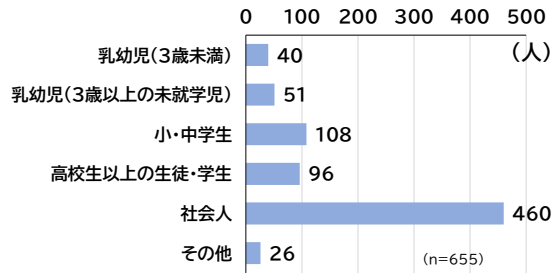


【上記設問で子どもが「いる」と回答した方のみ】

問9 該当するお子さんの人数を教えてください。

(あてはまるものに○をつけ、人数をお書きください。複数人いる場合は、合わせた人数についてお答えください)

選択肢	度数
乳幼児(3歳未満)	40
乳幼児(3歳以上の未就学児)	51
小・中学生	108
高校生以上の生徒・学生	96
社会人	460
その他	26
合計	781

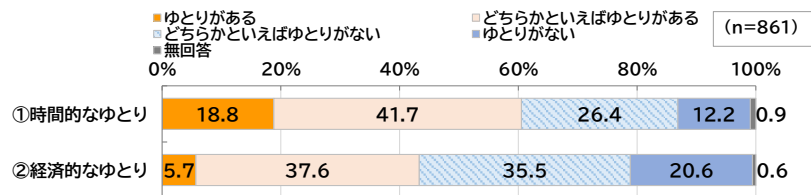


※本項目は複数回答であり、総回答数(781)と総回答者数(655)は異なっている。

※問9では、お子さんの人数を聞いたが、無回答が多かったため、人数を除き、選択肢に該当する子どもの有無を示している。

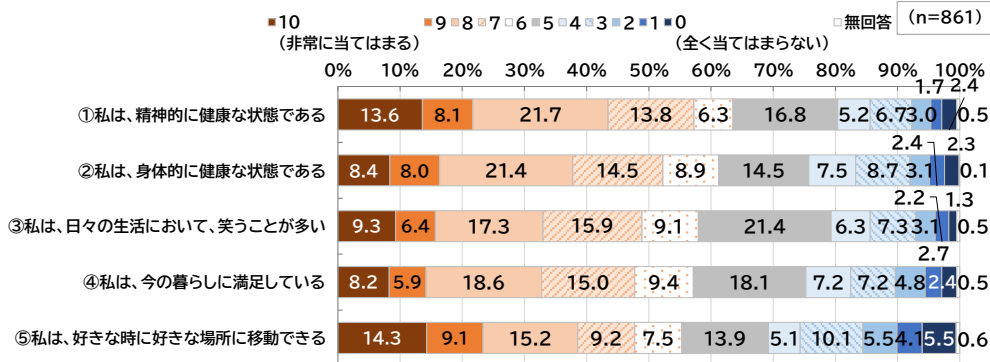
問10 普段の暮らしにおける時間的なゆとりと、経済的なゆとりの有無についてお聞かせください(それぞれ1つに○)

	ゆとりがある	どちらかといえばゆとりがある	どちらかといえばゆとりがない	ゆとりがない	無回答	合計
①時間的なゆとり	162	359	227	105	8	861
②経済的なゆとり	49	324	306	177	5	861



問11 現在のあなたの健康状態や暮らしの満足度をお聞かせください。「非常に当てはまる」を10点、「全く当てはまらない」を0点として、最も近い感覚の数字を選んでください(それぞれ1つに○)

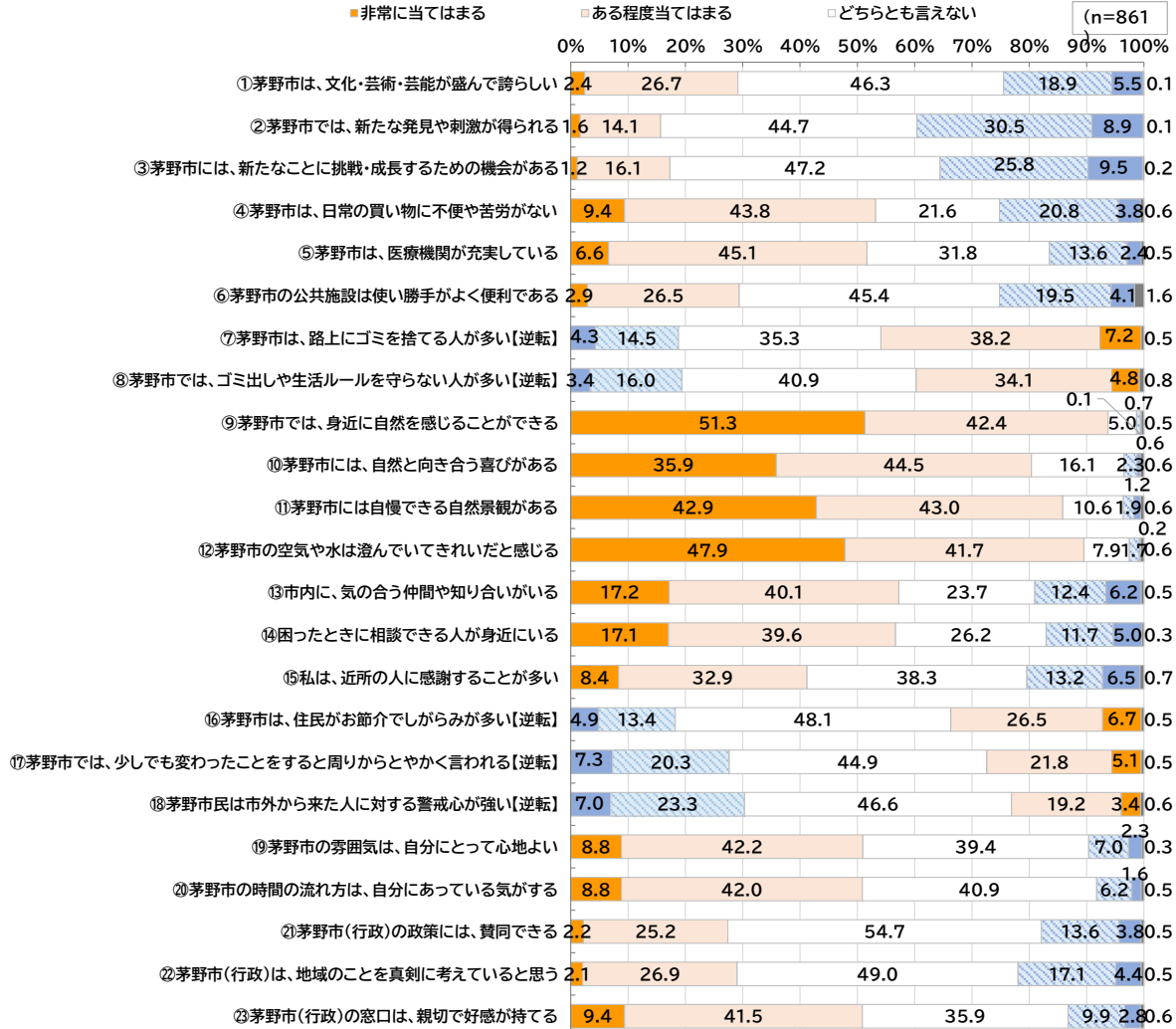
	10 (非常に当てはまる)	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0 (全く当てはまらない)	無回答	合計	平均点
①私は、精神的に健康な状態である	117	70	187	119	54	145	45	58	26	15	21	4	861	6.53
②私は、身体的に健康な状態である	72	69	184	125	77	125	65	75	27	21	20	1	861	6.20
③私は、日々の生活において、笑うことが多い	80	55	149	137	78	184	54	63	27	19	11	4	861	6.20
④私は、今の暮らしに満足している	71	51	160	129	81	156	62	62	41	23	21	4	861	6.02
⑤私は、好きな時に好きな場所に移動できる	123	78	131	79	65	120	44	87	47	35	47	5	861	5.95



問12 茅野市での暮らしの様々な場面について、あなたの考えをお聞かせください(それぞれ1つに○)

	非常に当てはまる	ある程度当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	無回答	合計	平均点
①茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	21	230	399	163	47	1	861	3.02
②茅野市では、新たな発見や刺激が得られる	14	121	385	263	77	1	861	2.69
③茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある	10	139	406	222	82	2	861	2.74
④茅野市は、日常の買い物に不便や苦労がない	81	377	186	179	33	5	861	3.34
⑤茅野市は、医療機関が充実している	57	388	274	117	21	4	861	3.40
⑥茅野市の公共施設は使い勝手がよく便利である	25	228	391	168	35	14	861	3.05
⑦茅野市は、路上にゴミを捨てる人が多い【逆転】	37	125	304	329	62	4	861	3.30
⑧茅野市では、ゴミ出しや生活ルールを守らない人が多い【逆転】	29	138	352	294	41	7	861	3.21
⑨茅野市では、身近に自然を感じることができる	442	365	43	6	1	4	861	4.45
⑩茅野市には、自然と向き合う喜びがある	309	383	139	20	5	5	861	4.13
⑪茅野市には自慢できる自然景観がある	369	370	91	16	10	5	861	4.25
⑫茅野市の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	412	359	68	15	2	5	861	4.36
⑬市内に、気の合う仲間や知り合いがいる	148	345	204	107	53	4	861	3.50
⑭困ったときに相談できる人が身近にいる	147	341	226	101	43	3	861	3.52
⑮私は、近所の人に感謝することが多い	72	283	330	114	56	6	861	3.24
⑯茅野市は、住民がお節介でしがらみが多い【逆転】	42	115	414	228	58	4	861	3.17
⑰茅野市では、少しでも変わったことをすると周りからとやかく言われる【逆転】	63	175	387	188	44	4	861	2.97
⑱茅野市民は市外から来た人に対する警戒心が強い【逆転】	60	201	401	165	29	5	861	2.89
⑲茅野市の雰囲気は、自分にとって心地よい	76	363	339	60	20	3	861	3.48
⑳茅野市の時間の流れ方は、自分にあっている気がする	76	362	352	53	14	4	861	3.51
㉑茅野市(行政)の政策には、賛同できる	19	217	471	117	33	4	861	3.08
㉒茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う	18	232	422	147	38	4	861	3.05
㉓茅野市(行政)の窓口は、親切で好感が持てる	81	357	309	85	24	5	861	3.45

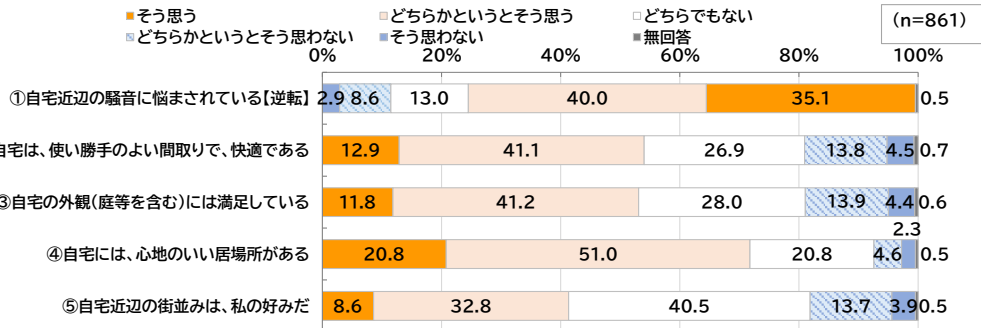
※項目内に【逆転】の記載があるものは、あてはまるほどネガティブな項目である。



問13 あなたのご自宅や住まい周辺の環境について、あなたの考えをお聞かせください(それぞれ1つに○)☒

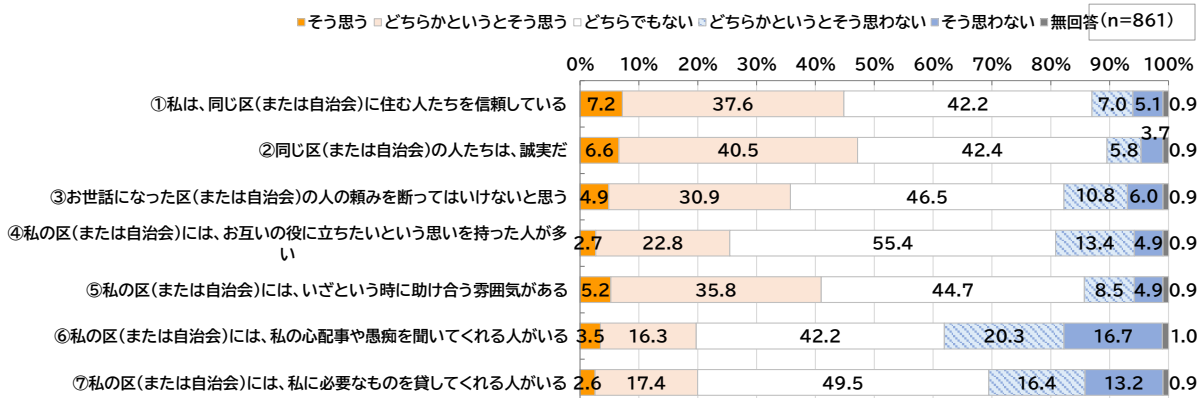
	そう思う	どちらかという思う	どちらでもない	どちらかという思わない	そう思わない	無回答	合計	平均点
①自宅近辺の騒音に悩まされている【逆転】	25	74	112	344	302	4	861	3.96
②自宅は、使い勝手のよい間取りで、快適である	111	354	232	119	39	6	861	3.4
③自宅の外観(庭等を含む)には満足している	102	355	241	120	38	5	861	3.4
④自宅には、心地のいい居場所がある	179	439	179	40	20	4	861	3.8
⑤自宅近辺の街並みは、私の好みだ	74	282	349	118	34	4	861	3.3

※項目内に【逆転】の記載があるものは、あてはまるほどネガティブな項目である。



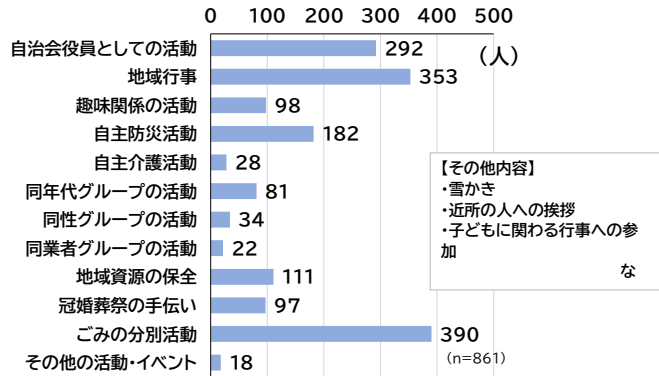
問14 あなたの住んでいる区(または自治会)についての考えと活動状況をお聞かせください(それぞれ1つに○)☒

	そう思う	どちらかという思う	どちらでもない	どちらかという思わない	そう思わない	無回答	合計	平均点
①私は、同じ区(または自治会)に住む人たちを信頼している	62	324	363	60	44	8	861	3.35
②同じ区(または自治会)の人たちは、誠実だ	57	349	365	50	32	8	861	3.41
③お世話になった区(または自治会)の人の頼みを断ってはいけないと思う	42	266	400	93	52	8	861	3.18
④私の区(または自治会)には、お互いの役に立ちたいという思いを持った人が多い	23	196	477	115	42	8	861	3.05
⑤私の区(または自治会)には、いざという時に助け合う雰囲気がある	45	308	385	73	42	8	861	3.28
⑥私の区(または自治会)には、私の心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる	30	140	363	175	144	9	861	2.69
⑦私の区(または自治会)には、私に必要なものを貸してくれる人がいる	22	150	426	141	114	8	861	2.79



問15 あなたの住んでいる区(または自治会)における活動のうち、あなたが通常参加しているものを教えてください(あてはまるものすべてに○)

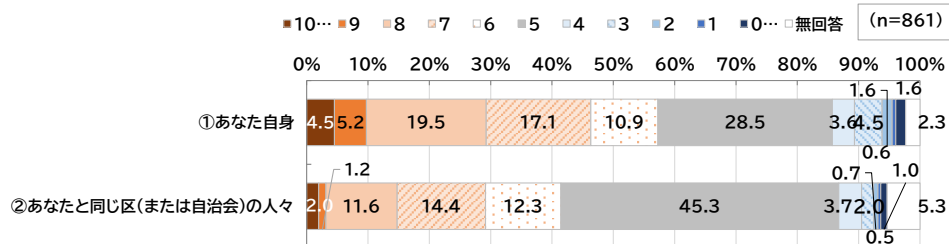
選択肢	度数
自治会役員としての活動	292
地域行事	353
趣味関係の活動	98
自主防災活動	182
自主介護活動	28
同年代グループの活動	81
同性グループの活動	34
同業者グループの活動	22
地域資源の保全	111
冠婚葬祭の手伝い	97
ごみの分別活動	390
その他の活動・イベント	18
合計	1,706



※本項目は複数回答であり、総回答数(1,706)と総回答者数(861)は異なっている。

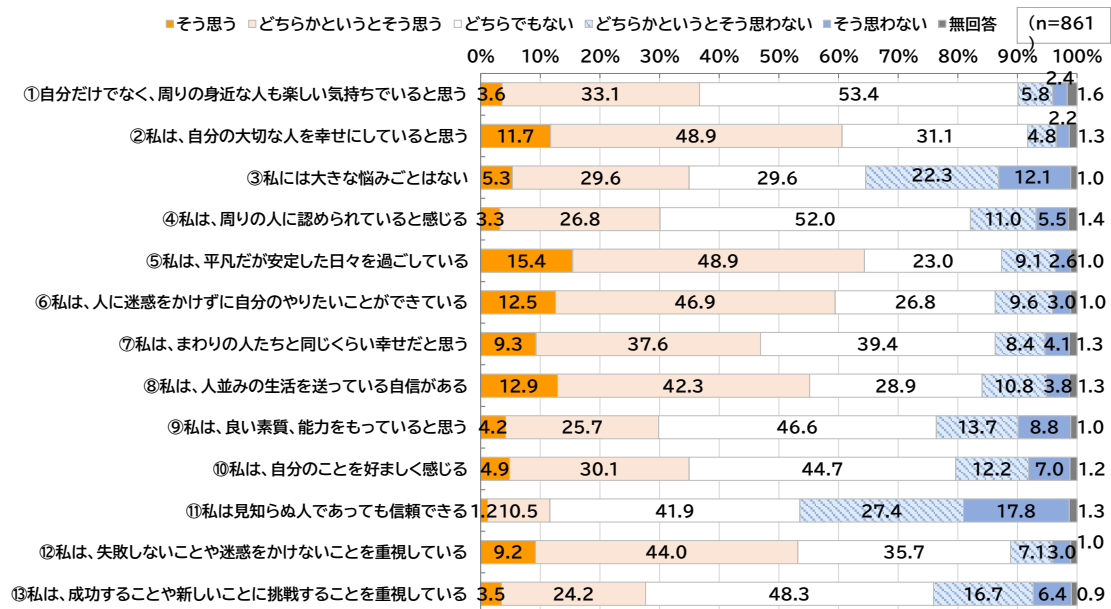
問16 あなた自身と同じ区(または自治会)の人々の幸福度についてのお考えを教えてください。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、最も近い感覚の数字を選んでください(それぞれ1つに○)

	10 (とても幸せ)	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0 (とても不幸)	無回答	合計	平均点
①あなた自身	39	45	168	147	94	245	31	39	14	5	14	20	861	6.22
②あなたと同じ区(または自治会)の人々	17	10	100	124	106	390	32	17	6	4	9	46	861	5.78



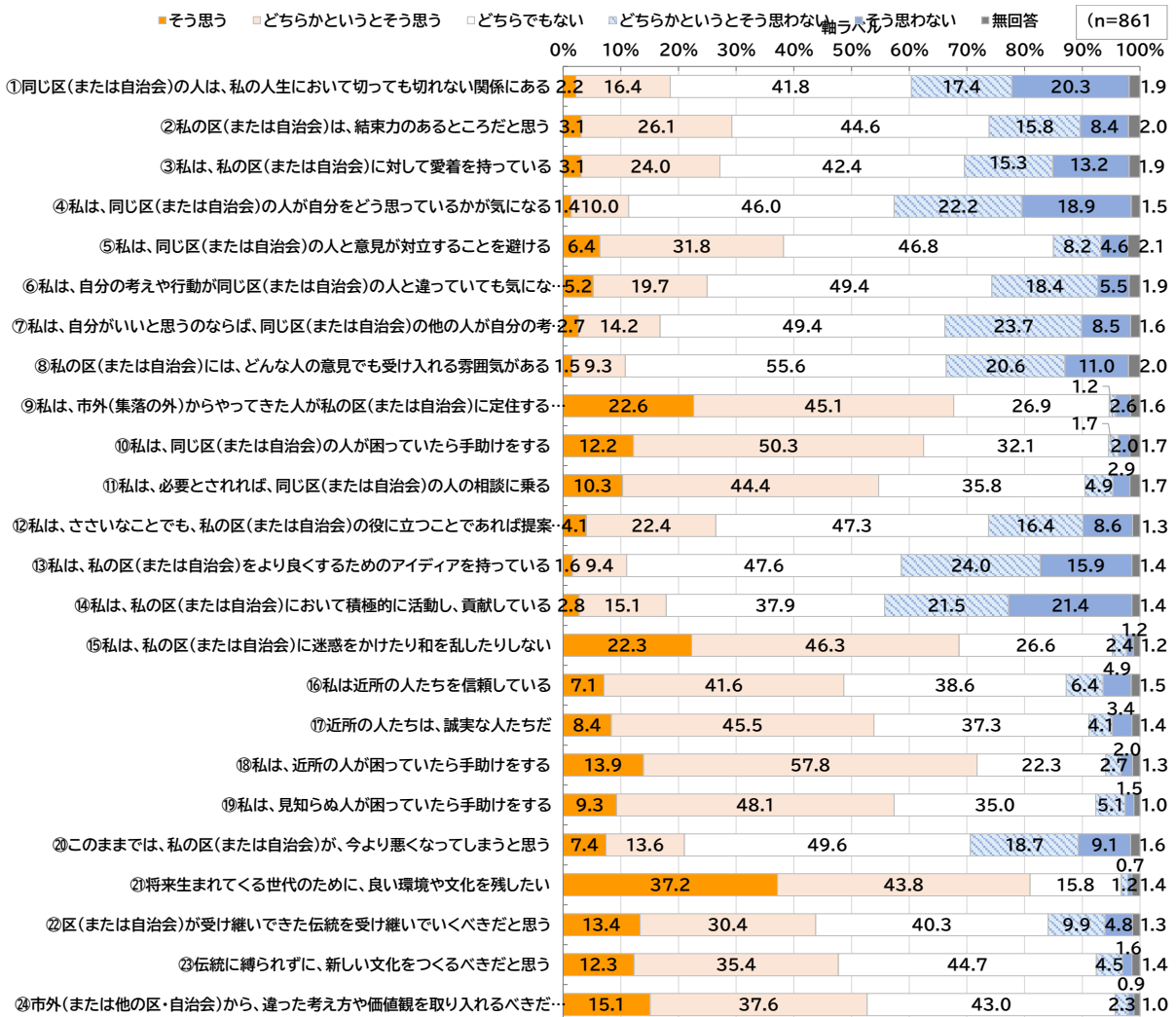
問17 あなたの物事の捉え方や価値観などをお聞かせください(それぞれ1つに○)

	そう思う	どちらかというと思う	どちらでもない	どちらかというと思う	そう思わない	無回答	合計	平均点
①自分だけでなく、周りの身近な人も楽しい気持ちでいると思う	31	285	460	50	21	14	861	3.30
②私は、自分の大切な人を幸せにしていると思う	101	421	268	41	19	11	861	3.64
③私には大きな悩みごとはない	46	255	255	192	104	9	861	2.94
④私は、周りの人に認められていると感じる	28	231	448	95	47	12	861	3.12
⑤私は、平凡だが安定した日々を過ごしている	133	421	198	78	22	9	861	3.66
⑥私は、人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができる	108	404	231	83	26	9	861	3.57
⑦私は、まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う	80	324	339	72	35	11	861	3.40
⑧私は、人並みの生活を送っている自信がある	111	364	249	93	33	11	861	3.50
⑨私は、良い素質、能力を持っていると思う	36	221	401	118	76	9	861	3.03
⑩私は、自分のことを好ましく感じる	42	259	385	105	60	10	861	3.14
⑪私は見知らぬ人であっても信頼できる	10	90	361	236	153	11	861	2.49
⑫私は、失敗しないことや迷惑をかけないことを重視している	79	379	307	61	26	9	861	3.50
⑬私は、成功することや新しいことに挑戦することを重視している	30	208	416	144	55	8	861	3.02



問18 あなたの区(または自治会)や近所の人との関係性について、あなたの考えをお聞かせください(それぞれ1つに○)☒

	そう思う	どちらかとう思う	どちらでもない	どちらかとう思わない	そう思わない	無回答	合計	平均点
①同じ区(または自治会)の人は、私の人生において切っても切れない関係にある	19	141	360	150	175	16	861	2.62
②私の区(または自治会)は、結束力のあるところだと思ふ	27	225	384	136	72	17	861	3.00
③私は、私の区(または自治会)に対して愛着を持っている	27	207	365	132	114	16	861	2.88
④私は、同じ区(または自治会)の人が自分をどう思っているかが気になる	12	86	396	191	163	13	861	2.52
⑤私は、同じ区(または自治会)の人と意見が対立することを避ける	55	274	403	71	40	18	861	3.28
⑥私は、自分の考えや行動が同じ区(または自治会)の人と違っても気にならない	45	170	425	158	47	16	861	3.01
⑦私は、自分がいいと思うのなら、同じ区(または自治会)の他の人が自分の考えを何と思おうと気にしない	23	122	425	204	73	14	861	2.79
⑧私の区(または自治会)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	13	80	479	177	95	17	861	2.69
⑨私は、市外(集落の外)からやってきた人が私の区(または自治会)に定住することは喜ばしいことだと思ふ	195	388	232	10	22	14	861	3.85
⑩私は、同じ区(または自治会)の人が困っていたら手助けをする	105	433	276	15	17	15	861	3.70
⑪私は、必要とされれば、同じ区(または自治会)の人の相談に乗る	89	382	308	42	25	15	861	3.55
⑫私は、ささいなことでも、私の区(または自治会)の役に立つことであれば提案する	35	193	407	141	74	11	861	2.97
⑬私は、私の区(または自治会)をより良くするためのアイデアを持っている	14	81	410	207	137	12	861	2.56
⑭私は、私の区(または自治会)において積極的に活動し、貢献している	24	130	326	185	184	12	861	2.56
⑮私は、私の区(または自治会)に迷惑をかけたり和を乱したりしない	192	399	229	21	10	10	861	3.87
⑯私は近所の人たちを信頼している	61	358	332	55	42	13	861	3.40
⑰近所の人たちは、誠実な人たちだ	72	392	321	35	29	12	861	3.52
⑱私は、近所の人困っていたら手助けをする	120	498	192	23	17	11	861	3.80
⑲私は、見知らぬ人が困っていたら手助けをする	80	414	301	44	13	9	861	3.59
⑳このままでは、私の区(または自治会)が、今より悪くなってしまうと思ふ	64	117	427	161	78	14	861	2.91
㉑将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	320	377	136	10	6	12	861	4.17
㉒区(または自治会)が受け継いできた伝統を受け継いでいくべきだと思ふ	115	262	347	85	41	11	861	3.38
㉓伝統に縛られずに、新しい文化をつくるべきだと思ふ	106	305	385	39	14	12	861	3.53
㉔市外(または他の区・自治会)から、違った考え方や価値観を取り入れるべきだと思ふ	130	324	370	20	8	9	861	3.64



令和5年（2023年）12月19日

茅野市長 今井 敦 様

茅野市総合計画審議会
会 長 矢崎 敏臣

第6次茅野市総合計画基本構想（案）について（答申）

令和4年（2022年）2月14日付け3企第128号で諮問のありました第5次茅野市総合計画のあり方について、慎重に審議を重ねた結果、新しい時代に対応した総合計画の策定が必要であると判断し、別添のとおり、第6次茅野市総合計画基本構想（案）をとりまとめましたので答申します。

今後、本答申の趣旨に基づき、~~新しい時代に対応した具体的な取組を定めた~~基本計画を検討の上、速やかに第6次茅野市総合計画（以下、計画という。）を策定し、その着実な推進に努めてください。

なお、計画の推進にあたり、下記の事項に留意してください。

記

- 1 計画が多くの人に意識されるものとなるよう、常に様々な機会を捉えて周知してください。
- 2 計画が**実効性のあるものとなるような取組を実施し**、進行管理にあたっては、取組の評価に重点を置き、その結果を次期の取組に活かしてください。
- 3 計画が様々な主体の協働により推進されるよう、市職員一人ひとりが計画への理解を深め、それぞれの業務の中で計画の推進に必要な協働をリードできる人材を育成してください。